

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成27年度事業)

平成28年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	前期計画で得られた成果	2
5	教育委員会の活動状況	6
6	外部評価者の意見	9
	教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見	
	Ⅰ 全体を通じた意見	10
	Ⅱ 各事業についての意見	11
○	酒田市教育振興基本計画体系図	22
7	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
1	「いのち」の教育の推進	
	・ 「いのち」の教育の推進	23
	・ 防災教育の推進	25
	・ 安全教育、安全対策の推進	26
2	確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	27
	・ 時代に対応した教育の推進 （国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）	28
	・ 読書活動の推進	30
	・ 特別な教育ニーズへの支援	31
	・ 幼保、小、中、高の連携	32
3	豊かな心と健やかな体の育成	
	・ 生徒指導等の充実	33
	・ いじめ防止に向けた取組みの推進	34
	・ 道徳教育の充実	35
	・ 体験活動、交流活動の推進	36
	・ ふるさと教育の推進	38
	・ 相談支援体制の充実	40
	・ 基礎的運動能力の向上	41
	・ 健康教育の推進	43
	・ 食育の推進	45

4	家庭、学校、地域との連携	
・	青少年の健全育成	47
・	家庭教育の支援	49
・	地域教育力の向上	51
・	地域産業界、高等教育機関との連携	52
・	青少年指導活動の推進	53
5	教育環境の整備	
・	学校施設の整備	54
・	学校規模の適正化の推進	56
・	通学の安全確保	57
・	学習バスの運行	58
・	学校 I C T 環境の整備充実	59
・	教育の機会均等	60
・	私立学校等の振興	62
6	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・	明るく楽しい元気な学校づくりの推進	63
・	学校運営の公開と学校評価の推進	64
・	教職員研修等の充実	65
・	体罰根絶に向けた取組みの推進	66
・	学校施設の地域開放の推進	67
II	世代を超えてまなびあう	
7	生涯学習の充実	
・	生涯学習推進体制の整備	68
・	生涯学習社会の基礎づくり	69
・	生涯学習機会の提供	70
・	地域活動の活性化	71
8	図書館活動の充実	
・	図書館機能の充実	72
・	光丘文庫の保全と活用	74
・	子どもの読書活動の推進（再掲）	75

Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる

9 スポーツ・レクリエーションの推進

・ 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）	76
・ 生涯スポーツの推進	77
・ 競技スポーツの振興	78
・ スポーツ施設の整備充実	79

Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

10 芸術文化活動の推進

・ 芸術文化の振興	80
・ 市民の鑑賞機会の充実	81
・ 青少年の芸術文化活動の充実	83

11 歴史・文化遺産の保存と活用

・ 文化財等の保存と活用	85
・ 地域における民俗文化財の保存と活用	87
・ 地域資料の収集と保存	89

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成 27 年度の市長の権限に属する事務のうち文化（文化財の保護に関することを除く。）及びスポーツ（学校における体育に関することを除く。）に関する事務と、平成 27 年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準により A から D にランク付けを行う。

なお、事業の性質上、個別の施策にランク付けを行うことはなじまないと考えられるものについては、評価基準によるランクを示さず、今後の方向性を記載している。

（1）主な事業の取組み内容

- ・ 施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・ 事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・ 目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

（2）事業の成果

- ・ 施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・ 二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。 今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。 今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 前期計画で得られた成果

【基本的方向Ⅰ 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ】

1. 確かな学力の向上

- 小中学校における確かな学力の向上のために、各校の授業研究会への指導主事の派遣や小中スクラム授業研修会及び小中授業力向上研修会を実施し、新学習指導要領で求められる授業のあり方について、小中学校の校種を越えた実践的な研修等を開催した。小学校4年生から中学校3年生を対象にした標準学力検査の継続的な実施と分析を行い、各学校、各学級、各教科の学習状況を把握し、課題に応じた指導方法の改善に努めた。
- 時代にふさわしい能力を身につけさせるために、小学校5・6年生の全クラスで外国語指導助手（ALT）を活用した英語の授業や情報モラル等の指導、効果的なICT機器の活用、科学教育充実のための理科自由研究相談会、ものづくり事業などに取り組んだ。直接異文化に触れ、国際感覚の基礎を身につけられるよう海外派遣事業を実施した。
- 学校での読書活動を推進するために、朝読書や全校一斉読書を各校で実施し、読書への意欲付けを図った。図書専門員を全校に配置し、学校図書環境整備を行うとともに、図書専門員の力量を高めるために図書館教育研修会を実施した。平成22年度に「酒田市子ども読書活動推進計画」を策定し、庁内関係課や関係団体、各種ボランティア等との協力・連携を図り、発達段階に応じた読み聞かせや一斉読書の環境を整えるなど、読書習慣形成の基礎づくりに取り組んだ。
- 特別な支援を必要とする児童生徒に対応するために、教育支援員（学習支援員）を小中学校に配置するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに合った支援ができるように、各校

の特別支援教育コーディネーターを対象とした研修会の充実や、酒田特別支援学校との連携を図るよう努めた。日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒に対して、日本語講師による個別の指導を実施した。

- 幼保小指導者相互職場体験研修を実施し、子どもの発達段階を理解するとともに、課題を共有化することができた。中高連絡会を実施し、それぞれの学校における生徒の実態や課題を共有することができた。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

- 児童生徒の豊かな心をはぐくむため、道徳教育の充実、「公益の心」のかん養、体験活動の工夫に努めるとともに、生徒指導の三機能を活かした指導を充実するなど、各校の実情に合わせて取り組んだ。
- 地域における奉仕活動、自然体験、職場体験活動等それぞれの活動を各校の実情に応じて実施した。鳥海家族旅行村を拠点とした自然体験学習や飛島いきいき体験スクールを実施し、地元酒田の良さを体験する活動に取り組んだ。沖縄県今帰仁村との相互交流を継続し、自分たちの住んでいる地域と異なった文化を体験することができた。
- スクールカウンセラーや教育相談員を各中学校に配置し、問題行動の予防・早期発見・対応のための相談支援体制の充実に努めた。
- 運動遊びサポーター派遣事業を実施し、多様な運動遊びを通して敏捷性や平衡性、巧緻性などの基礎的な運動を楽しみながら身につけるような授業改善の工夫を図り、小学校低学年における基礎的な運動能力の向上に努めた。
- 生涯にわたる健康の保持を意識するように計画的な健康相談や保健学習を実施した。学校医と連携し、うがい、手洗いの励行など感染症予防の取り組みやアレルギー対策の取り組みが多く为学校で行われるようになってきている。学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝・早起き・朝ごはん」等の生活リズムを目的とした取り組みも多く的小学校で実施されている。
- 栄養教諭等の巡回指導、毎月の「給食だより」の発行や保護者向けの栄養教諭の講話、酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるために学期に1回行っていた「酒田産給食」を平成25年度から毎月1回の「食育の日献立」として実施した。さらに、平成25年度からは「つや姫給食」や酒田産米100%の「米粉パン給食」も実施した。
- 警察、自治会等の地域関係機関、見まもり隊などと連携し、児童生徒の登下校の安全確保、実践的な安全教室等の開催、学校による交通ルール、マナー等の指導に努めた。年度始めの「通学路の安全点検」「学校安全マップ」の作成なども学校の実態に応じて実施した。「非常災害対策と防止計画」の見直しを行い、具体的な災害を想定した避難訓練が実施されている。

3. 家庭・学校・地域との連携

- 各校の計画に基づき地域の福祉施設訪問や清掃ボランティア等を積極的に実施するとともに、地域の先生を活用した授業を展開し、地域の教育力向上に努めた。

- 中学生職場体験学習を市内全中学校で2日間以上実施し、職業観のかん養を図ることで、地域産業界との連携に努めた。中村ものづくり事業を実施し、県立酒田光陵高等学校や県立産業技術短期大学校の先生方から協力をいただき、事業を幅広く展開することにより、地域の教育機関との連携に努めた。
- 青少年指導センターが中心となり、青少年育成推進員や民生児童委員などの協力を得ながら、計画的な街頭指導や街頭宣伝活動を実施し、青少年の健全育成に努めた。
- PTA・学校・地域が互いに協同して実施する、親子での体験型学習会や研修会等に支援した。
- 中高生の地域でのボランティア活動への促進を図るとともに、研修会への派遣や、事業運営への参画等、地域のリーダー育成につながる活動に努めた。
- 保護者がより参加しやすい効果的な実施場所である学校・保育所・幼稚園等と連携し、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習機会の提供を行い、切れ目のない家庭教育支援の充実に努めた。
- 地域の特性を活かした自然体験や伝統芸能等を学ぶ機会を地域や学校との連携を図りながら提供し、異年齢・異世代交流の促進に努めた。
- コミュニティ振興会と連携を図りながら、世代間の交流の促進や地域の歴史や文化、自然等を学ぶ機会の充実に努め、地域の教育力向上事業に取り組んだ。

4. 教育環境の整備

- 学校施設は、災害時の身近な避難所となることから、施設の耐震化を年次的に進めてきた。平成26年度で小学校が92.3%、中学校が100%の耐震化率となっている。
- 少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、本市では児童生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図ってきた。
- 平成24年4月に県立酒田光陵高等学校が開校したが、開校に向けて山形県教育委員会、関係学校長及び本市教育委員会等による開校準備委員会を組織するとともに、周辺地域の学校、地域住民、警察及び本市関係課等により連絡会議を設置し、当該地域における児童生徒の通学等の安全対策等の推進を図った。
- 地域学校安全指導員、各校の見守り隊、交通安全指導員が連携し、児童生徒の安全な通学の確保に努めてきた。通学路の安全点検も関係機関と連携しながら実施している。
- 時代に対応したICT環境としていくため、教育用コンピュータの定期的な更新を進めるとともに、授業においてもICT機器を効果的に活用することを進め、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力の育成に努めてきた。

5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

- 校内授業研究会に指導主事を派遣し、各校の研究に沿った指導をしている。初任研、10年目研などの法定研修の他に、児童生徒理解のための研修会を年3～4回実施し、教員の指導力向上に努めた。教職員評価を実施し、教職員の資質・能力の向上を図り、信頼される学校づくりを進めるとともに、各校の校内倫理委員会等で、教職員の綱紀保持に努めた。

- 開かれた学校づくりのために、全小中学校で学校評議員を委嘱し、学校運営に関して、第三者の意見を活かしている。どの学校でも自己評価、学校関係者評価を実施しており、アンケートの実施、分析、改善とともに、その結果について保護者や学校評議員に公表し、学校経営の改善につなげている。
- 特色ある学校づくりのために、伝統文化や芸能伝承活動、地域や異年齢との交流を重視した体験活動など、児童生徒及び地域の実態に応じた取り組みを実施し、豊かな教育活動を展開することで、児童生徒が明るく楽しく生活できるように努めてきた。

【基本的方向Ⅱ 世代を超えてまなびあう】

6. 生涯学習の充実

- 庁内関係課との情報の共有化や情報発信の一元化を図りながら、連携事業にも取り組み、市全体としてより充実した事業推進に努めた。
- ライフステージに応じた学びの推進を図るとともに、「個人の要望」と「社会の要請」のバランスに配慮した学習機会の提供を図り、個人の学びから活気ある地域づくりに活かす取り組みに努めた。
- 東北公益文科大学と連携した市民大学講座について、従来の講義中心の形式にワークショップ形式を取り入れ、地域（現代）課題等について、参加者同士のディスカッションにより、自ら考え学ぶ機会の提供を行った。
- 地域活動の活性化を図るため、各コミュニティセンターへ職員が積極的に出向き、事業参加を行いながら相談しやすい体制を整えてきた。

7. 図書館活動の充実

- 市民の要望に応えた適切な選書を行うとともに、郷土資料の収集に努め、図書館機能の充実を図った。平成25年12月に図書館システムを更新し、利用者の利便性とセキュリティ対策の向上に努めている。また、媒体の多様化に伴い、DVDなど視聴覚資料を充実させた。光丘文庫ではギャラリートークが好評であったことなどから入館者・利用者ともに増加した。
- 「酒田市子ども読書活動推進計画」を策定し、庁内関係課と連携して、子ども読書活動の推進を図った。

【基本的方向Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる】

8. スポーツ・レクリエーションの推進

- スポーツへの関心や健康体力づくり、運動に親しむきっかけづくりとして、毎年約1,500人が参加するスポーツレクリエーション祭をはじめとするスポーツ行事が開催されており、市民のライフステージに応じて幼児から高齢者まで幅広い年代層を対象に普及・促進が図られている。

【基本的方向Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす】

9. 芸術文化活動の推進

- 多くの市民が参加する市民芸術祭をはじめ、酒田希望音楽祭や希望ホール自主事業を通し、市民の鑑賞機会の充実、青少年の芸術文化活動を推進した。
- 一方で、価値観の多様化や参加者の高齢化等を背景に、集客や継承が困難になるなど、新たな課題への取り組みが必要となっている。

10. 歴史・文化遺産の保存と活用

- 旧燈屋、旧阿部家などの文化財施設については、保全管理に努めつつ行事等での活用を図った。
- 市立資料館や松山文化伝承館では歴史的資料の収集のみならず、企画展示を工夫するなどし、東日本大震災による入館者の影響を回復しつつある。
- 民俗芸能保存会を支援し後継者育成に努めたほか、民俗芸能公演会開催により、団体間の交流促進と市民への周知を図った。
- 埋蔵文化財の発掘調査に伴う遺物の調査整理並びに修復作業を進めている。また、学校の校外学習への対応も行った。

5 教育委員会の活動状況

(1) 教育長・委員の構成

平成 28 年 4 月 1 日現在

職名	氏名	任期
教育長	村上 幸太郎	平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
委員	浅井 良	平成 27 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
委員	齋藤 義明	平成 24 年 11 月 29 日～平成 28 年 11 月 28 日
委員	國眼 眞理子	平成 25 年 11 月 29 日～平成 29 年 11 月 28 日
委員	岩間 奏子	平成 27 年 11 月 29 日～平成 31 年 11 月 28 日

(2) 教育委員会制度改正に対する取り組み

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成 26 年法律第 76 号)(以下「改正地教行法」という。)が、平成 26 年 6 月 20 日に公布され、平成 27 年 4 月 1 日から施行された。

今回の改正は、教育委員会を引き続き執行機関としつつ、その代表者である教育委員会委員長と事務の統括者である教育長を一本化した新「教育長」を置くことにより、迅速な危機管理体制の構築を図ることを含め、教育行政の第一義的な責任者を明確化することとしている。

本市においても、平成 27 年 4 月 1 日より新「教育長」体制に移行し、教育委員会委員長職については廃止となった。

教育委員会制度改正前、改正後の教育委員会の概要については、次のとおりである。

項目	改正前	改正後
性格	地方公共団体に設置される行政委員会	変更なし
組織	5人の委員で組織	<u>教育長及び4人の委員で組織</u>
権限	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育及び社会教育に関すること ・学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること ・社会教育委員などの任命又は委嘱に関すること ・教科書の採択に関すること ・学校の区域に関すること ・市指定文化財に関すること 等 	変更なし
委員長	選任：委員のうちから教育委員会が選挙 権限：教育委員会を代表し、会議を主宰	<u>廃止</u>
教育長	選任：委員のうちから教育委員会が任命 権限：教育に関する事務をつかさどり、事務局を指揮監督 任期：教育委員の任期として4年 ※委員長と教育長は兼務不可	選任： <u>市長が議会の同意を得て、直接任命</u> 権限： <u>教育の会務を総理し、教育委員会を代表</u> 任期： <u>3年</u>

改正地教行法においては、新「教育長」が教育行政に大きな権限と責任を有することとなったことを踏まえ、酒田市教育委員会では、新「教育長」体制のもと教育委員会委員による新「教育長」へのチェック機能を強化するとともに、住民に対して開かれた教育行政を推進する観点から会議の活性化・透明化を図ることとしている。

(3) 教育委員会の活動状況

平成 27 年度の教育委員会の活動状況は次のとおりである。

・教育委員会会議の開催状況

項目	平成 27 年度
開催回数	13 回
審議案件数	55 件
教育長、各課等からの報告案件数	78 件

・教育委員会会議の審議概要

項目	件数	主な内容
基本方針・計画策定	3件	
規則等の制定・改廃	15件	
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	11件	予算、条例改正、指定管理者の指定などの議会議決案件
人事案件	14件	非常勤特別職の委嘱、職員人事等
教科書採択	1件	小中学校使用教科用図書採択
専決事項の承認	10件	規則等の制定・改廃1件、人事案件9件
その他	1件	市議会議長からの意見聴取
合計	55件	

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

・学校訪問、関連施設視察などの活動状況

実施日	訪問・視察箇所	主な内容
7月29日	南遊佐小学校	学校施設、授業の見学、学校長との意見交換
	第二中学校	学校施設、授業の見学、学校長との意見交換
	松原学区学童保育所	学童保育所の見学、職員との意見交換
10月28日 ～29日	三鷹市教育委員会	三鷹市におけるコミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育の取り組みの視察、三鷹市教育委員会職員、学校長との意見交換
	三鷹の森学園三鷹市立第五小学校	
11月9日	亀ヶ崎小学校	学校施設、授業の見学、学校長との意見交換
	光丘文庫	関連施設の視察

・教育委員会委員の会議、研修、各種行事等への参加状況（主なもの）

実施日	会議、研修、各種行事等名称	備考
4月7日～9日	酒田市立小中学校入学式	
4月21日	退職教職員感謝状贈呈式	
7月3日	庄内地区教育委員会協議会総会・研修会	
8月7日	山形県市町村教育委員会大会	
1月10日	酒田市成人式	
1月13日	市町村教育委員研究協議会	文部科学省主催研修
1月21日	酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会	
2月23日	小林教育振興基金青少年善行奨励賞表彰式	
3月16日・18日	酒田市立小中学校卒業式	

(4) 酒田市総合教育会議

改正地教行法により、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置されることとなった。

総合教育会議は、市長と教育委員会で構成され、教育等に関する施策の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策及び児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行うものである。

酒田市においても、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有しながら、連携して効果的に教育行政を推進していくため、酒田市総合教育会議が設置された。

平成 27 年度における酒田市総合教育会議の開催状況は次のとおりである。

・酒田市総合教育会議の開催状況

区分	実施日	協議内容
第 1 回	5 月 25 日	総合教育会議の持ち方、進め方について 教育等に関する施策の大綱（案）について 本市の教育を取り巻く諸課題について ・酒田市人口減少対策に係る総合的な展開 ・酒田市の少子化と学校の現状
第 2 回	11 月 26 日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・標準学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上対策
第 3 回	2 月 18 日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・酒田市と東北公益文科大学との連携について ・教育委員会（学校）と東北公益文科大学との連携について ・教育支援員充実事業について

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

6 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第 26 条第 2 項の規定により、次の 2 名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

外部評価者

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志 氏

東北公益文科大学 講師 白旗 希実子 氏

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価(27年度)についての意見

I 全体を通じた意見

昨年6月に酒田市の教育振興基本計画(後期計画)が策定された。教育目標や基本的な方向は従来どおりであったが基本施策が増えた関係で、事業数が3つ増加した。

また、今年度から市の組織改革で教育委員会に新たにスポーツ振興課が新設されたり、社会教育課が社会教育文化課となって、芸術文化部門が新設された。そのため昨年度まではいずれも市民部の所管であったが、点検評価対象の施策数として新たに7つの事業が追加された。さらに、従来複数の施策を1事業にまとめていたが、1施策1事業になったため5つの事業が増加した。

その結果、昨年度は対象事業が36であったが、今年度の対象事業は51事業と大幅に増加した。そのため、ヒアリングには多くの時間を費やした。しかしながら、1施策1事業とした点は、大変分かりやすくなったと思われる。

51の事業のうち、継続という方向性を示した事業が3事業で、残り48事業が評価対象事業であった。結果は評価A事業が19、評価B事業が29、CもしくはD評価はなかった。一昨年に比べC評価が解消されたことは評価に値する。さらに、昨年度に比べA評価の割合が31%から40%に増えた。前期計画の最終年度に相応しい達成度を示したものと思われる。しかしながら、後期計画に向かっては、あらかじめ十分達成可能な目標を掲げているのではないかという疑念が持たれたり、評価の根拠が甘くなっているのではないかと思われたいよう、今一度、目標や評価根拠を吟味したり、客観的な物差しを設定する必要があると思われる。

また、評価対象外の事業については、市民に周知する必要がある事業と思われるので、今後とも引き続き、継続、新規、一部新規のような表現で明記して欲しい。

次に数値目標の設定に関しては、昨年後期計画の見直しの際に大幅に検討して頂いた。

具体的には、新しい指標を設けた事業、複数の指標を設けて総合的に判断できるようにした事業、目標値をより現実的な数値に設定し直した事業、次年度から改定する予定の指標など多くの事業についてよりふさわしい指標になった。

今年度は、図書貸し出し冊数の指標と並べて読書好きの割合を併記したり、不登校児童生徒の割合と並べて実人数を併記したり、50m走の記録を小3、小5、中2の3区分で表示している点などの改善が見られた。

今後も相応しい指標が設定できる事業についてはできるだけ掲載して欲しい。ただ、昨年も指摘した点であるが、事業内容によっては必ずしも事業全体を表す指標だけではないので、説明する際は、数値が独り歩きをしないよう十分配慮する必要がある。

各事業の行政評価の資料は、原則1頁にまとめられていて見やすい体裁になっている。

資料区分は、各施策の目標、実施状況、効果、課題並びに点検評価などの項目になっていて、概ね評価に必要な項目が盛り込まれていると思われる。今年度の改善点としては、1施策1事業として記載されていたので、どの事業がどの施策の事業なのかを詮索する必要がなかった。また、重要施策や取組が多岐に亘る事業については2頁に亘って記載されていた。10事業以上あったが、基本的には分かりやすい記載内容であった。見開きでない場合もあるので、施策にその1その2とか付けて頂くと読みやすい。

また、移管された施策の中には、予算規模や参加(入館)者等の経年推移が記載されていない事業があったので、次年度からは是非明記して欲しい。

子どもたちの「特別な教育的ニーズ」を的確に把握し、今後も、その支援の充実に向けて、支援体制や制度の充実を図っていただければと思う。

小中学校の統廃合は、市勢調査に基づいて、おおむね順調に進展しているものと思われる。松山の小学校統合については一定の決着が図られたものと思われる。開校に向かったの準備もすすんでいると聞いている。統合後も諸行事や伝統が引継がれ、また三校のよさをいかした新たな活動が生まれるなど地域の方々が元気で子どもたちを支援できるような取り組みも必要であろう。

前述の通り、昨年度は振興基本計画の後期計画が策定された。また教育委員会制度が改正された。このことに関連して、点検評価の前段に、前期計画実施の成果と改正前後の教育委員会の概要についてコンパクトにまとめて頂いた。教育計画や運営全体について考える上で参考になった。

II 各事業についての意見

1 「いのち」の教育の推進

(1) 「いのち」の教育の推進

- ・放課後等に今日一日の出来事や行事等を振り返る時間を持つことは、朝読書と同様短時間だが児童生徒の心を育てる重要な機会である。児童生徒の1分間スピーチなどの主体的な活動も取り入れ、表現力やコミュニケーション能力の育成にも努力して欲しい。
- ・赤ちゃん登校日は、児童生徒が命の重さや大切さを感じる経験となり、赤ちゃんの親にとっても充実した経験となっている。
- ・赤ちゃん登校日は、子どもたちが将来経験する子育ての基本的な姿勢を学び、感触を味わう貴重な体験活動である。参加人数が、昨年196人から574人に増えたことは大きく評価できる。さらに、就学前の子どもたちに読み聞かせなどをして成長の跡を感じると同時に、幼児の発達の様子や課題を感じ取って欲しい。

(2) 防災教育の推進

- ・様々な災害の避難訓練を体験すると同時に、地震津波の場合は子どもたち自身がハザードマップを読み取る力を養うことも緊急時には役立つのではないか。
- ・避難する心構えも言葉や文字を通じて繰り返し確認し、「自分のいのち・友人家族のいのち・地域のいのち」に思いを馳せることのできる子どもを育てて欲しい。
- ・「学校防災マニュアル作成ハンドブック」の作成を進めていただきたい。

(3) 安全教育、安全対策の推進

- ・地域学校安全指導員をはじめとする多くの関係者の活動に敬意を表する。
- ・地域の特性に応じて避難のあり方が見直されて、保護者の引き渡しの訓練や保育園やコミセンとの合同訓練などの新たな取り組みは注目される。
- ・自転車指導は、将来の車の運転マナーに相通じる。映像だけでなく全員が自転車の乗り方を体験する機会を1回はもちたい。

2 確かな学力の向上

(1) 学力向上施策の充実

- ・ Q-Uは、その結果を教職員間で吟味し、児童生徒への対応や教育実践に適切に活用することで生かされる。教員の理解が深まってきているとのことであるが、さらに理解を深めていくための研修会等の継続的実施が望まれる。
- ・ 全国学力学習状況調査の結果を見ると、事業実施によって一定の成果が出ているが、まだまだ数学英語などの科目では不十分である。
- ・ 全国学力学習状況調査の活用問題はP I S A(*)の結果を受けて作成された経過があるが、求められている力は総合的かつ現実的な課題や問題を解決する力である。教師自身が問題分析や類似の問題を作成することで今後の指導への見通しが見えてくるのではないかと。
*OECD（経済開発機構）が作成した世界標準のテストで15才が対象。

(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）

- ・ 「はばたき」や「中村ものづくり事業」などにより、国際理解教育、科学・ものづくり教育などが推進されている。
- ・ 「はばたき」や「中村ものづくり」事業は、酒田市ならではのユニークな活動である。この活動が体験した生徒にとって将来を決定する大きな転機になったことが証明されれば大変素晴らしいし、さらに意欲的な参加者が増えるのではないかと。
- ・ 「はばたき」については、今後小学校の英語学習が教科化になることから、小学校高学年を対象にした外国でのホームステイ等を経験する機会も検討して欲しい。
- ・ ロサンゼルス四世交流事業はスポーツ文化両面の親善活動で姉妹都市交流へと発展できる可能性があるのではないかと。

(3) 読書活動の推進

- ・ 各小中学校に図書専門員が配置され、学校図書の環境整備が行われている。
- ・ 29名の図書専門員などを配置したことで、小中学生の貸出冊数が増加したことは評価できる。さらに、同じ本をグループやクラス単位で分担して読み合い語り合うような読書の質を深める活動も広げて欲しい。
- ・ 家庭での読書については保護者の理解と声かけが重要である。新聞と同様、読書は情報豊かな世界と社会を知る宝庫であることを感じて欲しい。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・ 教育支援員の配置、日本語指導講師の派遣、特別支援教育コーディネーター等を対象とした研修の実施など、個別のニーズに沿った指導・支援を行うため事業が展開されている。「特別な教育的ニーズ」を的確に把握し、それに応えていくために、今後も学校の実態に応じて、細やかな対応を実施してほしい。
- ・ 一昨年からの国の削減部分を酒田市が一部補てんした教育支援員の増員によって、現場の適応支援体制は維持できている。今後もより適切な支援員の配置・増員が求められている。
- ・ 同時に発達障がいのある児童生徒への指導要請も依然として多く、巡回相談員による訪問指導のニーズも高い。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・ 幼保小の指導者相互職場体験研修では、互いの教育観、保育観を理解し、それを日々の実践につなげることができたとあるが、今後も、「酒田っ子すくすくプラン」に述べられているように、「互いの保育・教育目標や指導内容・方法等についての理解をさらに深めていくこと」が重要である。

- ・小中の連携による、授業力向上研修会は、互いの立場と掲げている目標の違いを理解すると同時にそこから両者の共通点や接続の課題を見出していく契機となっているのではないか。
- ・全県的に中高の学力低下が指摘されているが、本市でも中高での認識のずれがどこにあるのかがまだ十分解明されていないように感じられる。
- ・さらに大学等複数の高等教育機関をもつ当地にとっては、大学等の知や技術を広く学校教育に還元するシステムができているとは言えない。「幼保、小、中、高、大等の連絡協議会」のような組織の設置が将来的には望まれる。

3 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 生徒指導等の充実

- ・全国学力学習状況調査の結果、小学校で自己肯定感や自尊感情が全国平均より高かったことは指導の成果である。中学校でも同様の結果がでるよう継続して取り組んで欲しい。
- ・発達課題や学習課題を達成するために、子どもたちがどうメディア機器を操作したり活用したらよいかを保護者と一緒に考え取り組む必要がある。
- ・教育相談事例研修会や中学校生徒指導主事会の開催は、各校および小中学校間の連携を強化し、各教員が児童生徒の理解を深める貴重な機会となっている。

(2) いじめ防止に向けた取り組みの推進

- ・保護者対象のアンケートを実施するなど、早期発見に向けた取り組みが行われている。
- ・定期的な「いじめアンケート」を保護者も含めて実施していることは、早期発見と早期の対応につながる有力な方法の一つである。
- ・いじめ対策協や問題委員会の設置はいざという時の心構えとして、適切な措置を取る下地が出来ていくと思われる。

(3) 道徳教育の充実

- ・「答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』への転換」(小学校学習指導要領解説(特別の教科 道徳))
に向けた、授業づくりが進められている。
- ・学校におけるボランティア活動については学年毎に様々な異なった活動を計画して、児童生徒の心を充実させ、地域の実情を知るきっかけになって欲しい。
- ・「公益の心」は、道徳教育が十分持ち合わせていない、変化に対応する柔軟な心や創造する心を持っていることをもっと強調してもいいのではないか。

(4) 体験活動、交流活動の推進

- ・飛島は山形県唯一の離島であるが、鳥海山と同様ジオパークの対象になっている。体験や学習を通して本島(本州)にはない飛島の地層的な特徴や植生・鳥の種類・地域史などについて理解を深め、飛島の良さを伝えられるようになって欲しい。
- ・「少年の翼」事業は、風土こそ異なるが、夢や希望は同じであるという感覚を共有することで相互理解を通じて友好の輪を広げることができる事業で満足度も高い。
- ・「酒田っ子ミステリーバスツアー」は、児童にとって地域・キャリアの学習となり、中高生のボランティアにとっても意義深い活動となっている。参加者の満足度も高く、さらに魅力をアップして継続して欲しい。

(5) ふるさと教育の推進

- ・各学校で、地域の方との交流を継続的にこなうことで、子どもたちの地域への思いや、地域の人々との交流が深まっている。
- ・基本的には、上記（３）（４）の事業をふるさと教育の視点からまとめた枠組みであるが、新たに開設した吉野弘講座は市民が地元出身の偉人を顕彰する良い機会である。
- ・成人式のみならず吉野氏の素晴らしい詩を朗読する時間を持ちたいし、その他にも岸洋子など忘れ去られようとしている身近な偉人の足跡に触れることで、市民や子どもたちが郷土への誇りを持てるようにしたい。

(6) 相談支援体制の充実

- ・不登校児童生徒の出現率がパーセントだけでなく実数でも記載されていることから実態が分かりやすく、小中との比較も容易になったと思われる。改善した点を評価したい。
- ・専門的なスキルを持ったスクールカウンセラーや家庭相談員の配置は学校にとって必要不可欠である。適応指導教室からの登校可能児童数も一定の成果を上げていると思われる。目標達成に向けて、さらなる工夫と努力が求められている。
- ・スクールカウンセラー、教育相談員、家庭訪問相談員による相談体制が整備されている。複数の方が各学校に配置されることで、生徒や親が相談しやすい環境がつけられている。
- ・相談員間、他職種間の連携を今後も期待する。

(7) 基礎的運動能力の向上

- ・今後も、子どもたちの安全に十分に配慮しながら、充実した授業づくりを進めていっていただきたい。
- ・50m走に関して小3・小5・中2の区別で示したことは、その達成度と推移が見えて分かりやすい。改善した点を評価したい。
- ・この新しい指標を見ると、専門の講師による陸上教室の成果や学校での取り組みの成果がはっきりと出ている。今後は、跳ぶ・投げる能力を含めた総合的な運動能力の伸長に意を尽くして、かつての陸上王国酒田にふさわしい成果を上げて欲しい。

(8) 健康教育の推進

- ・自身の健康課題についての取り組みを、主体的にまとめ、それを発表することは、児童生徒にとって、意義ある学習経験となっていると考えられる。
- ・学校保健会と連携しながら、アレルギー、ドラッグ、感染症など新たな疾病に対する対応も含めた研修会を開催したり、DVDで情報を共有するなどの取り組みを積み重ねている。今後も、内科医、歯科医、薬剤師の方々から助言を頂きながら、疾病対策や健康維持に向けて、各学校の取り組みや啓蒙活動が求められている。

(9) 食育の推進

- ・各学校において、「食育」が、栄養教諭等の巡回指導、味覚教室、食に関する講話、「食育だより」などにより、進められている。
- ・小中とも地元産（庄内産）食材の利用率が増加したのは喜ばしいし、小学校では既に平成31年度目標を達成したことも大きく評価できる。
- ・「米粉パン」の他にも「つや姫」や「総称山形牛」などを提供するなど地元の特産食材も味わうことができるので、身体によい食感や観察力を磨いて欲しい。
- ・今後、指定管理制度によって味が落ちたり、冷めた食材を食べることにならないよう「おいしい給食」への配慮が必要である。

4 家庭、学校、地域との連携

(1) 青少年の健全育成

- ・高校生ボランティアの活動は、仲間同士の交流を振興するとともに、地域の子どもたちにも大きな元気を与えている。
- ・コミ振毎の「地域人材交流講座」では、その地域の特性を生かした活動や得がたい地域の名人に支えられた多彩な活動が展開されている。
- ・成人式を運営する公益大生やお泊まり会のお手伝いや巨大迷路を企画運営した高校生ボランティア「かざみどり」の活動は地域の方々に大きな元気を与えている。
- ・これを支える中学生ボランティアグループの育成や街づくりや活性化につながる若者や青年の組織化やリーダー育成も大きな課題である。

(2) 家庭教育の支援

- ・祖父母対象の講座は、全国的にも関心が高まっており、酒田市でも日中、お孫さんの育児をなさる祖父母の方も多くいらっしゃるため、意義深い講座と思われる。
- ・生涯学習推進講座では、地域家庭教育講座や赤ちゃん登校日（再掲）の事業では参加者を大きく伸ばしている点で評価できるし、全10事業の総参加人数も増加した。
- ・今後は子育てに参加しない親への声掛けや支援についてどう働きかけていくのか幼稚園、保育園や関係課と連携しながら地道に進めていく必要がある。

(3) 地域教育力の向上

- ・本事業は、コミ振毎に主体性を発揮して、三世代交流や地域文化の伝承、地域の自然理解などについて開催したが、昨年より15%(2千人)以上参加者が増えたことは評価できる。
- ・北平田コミュニティ振興会の放課後広場の取り組みは、子どもたちが体を使って遊ぶようになった1つのきっかけと伺っている。
- ・すべてのコミ振を訪問して実施状況や課題を伺い、場合によっては助言するなどして青少年と地域の交流を図って欲しい。

(4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・中学生職場体験学習推進事業に協力していただいている企業・施設等の皆様方、中学校の先生方、関係する皆様のご尽力により、充実した職場体験が実施されている。
- ・中学生職場体験は、各中学校とも体験先の職場確保や準備等で大変苦労されているが、その成果も大きいと思われる。全中学校とも3日間にできないのだろうか。
- ・他地区では、普通科の高等学校が地元の有力企業を見学したり説明を聞くツアーを実施している。本地区でも専門高校だけでなく普通科の高校にも地元企業が社会に貢献している生産現場を見せたい。

(5) 青少年指導活動の推進

- ・酒田市全域を通年にわたり、総合的な街頭指導を実施していただいたとのことで、関係する皆様方に敬意を表する。
- ・巡回指導における声掛け回数を記入する試みは、回数もさることながら声のかけ方について様々工夫するようになるので良い取り組みになっていると思われる。
- ・最近ネット上での誹謗中傷などのいじめ件数が増加している。定期的な監視と共に掲載削除の依頼も含めて、情報が拡散する前の早期の対策・処理が求められている。
- ・万引きは常習性と窃盗などに発展する危険性があるので、小学生といえども放置せず早期に対応してきちんと止めさせる指導が重要である。

5 教育環境の整備

(1) 学校施設の整備

- ・耐震化工事や小中学校の校舎及びグラウンドの整備も計画的に進んでいると思われる。特に、津波対策用の屋上フェンスの設置も計画的に進んでいると思われる。
- ・国の予算が厳しい状況とのことであるが、耐震化、津波対策が進められている。子どもたちの安全で良好な教育環境の整備を今後も進めていっていただきたい。
- ・多くの学校でそろそろ施設設備が傷んでくる時期に差し掛かっている。それらを長持ちさせる「長寿命化計画」を策定して、点検結果から、適切な改修、更新の時期を設定するなど、持続可能な施設管理の視点が求められている。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・松山小学校統合については、一定の決着が図られ、開校に向かって学校改築や仮住まい等の準備が進められていると思われる。
- ・将来の教育人口統計をもとに統廃合を進めているが、特に将来複式学級となる人口減少地域では、客観的な状況を伝え、話し合いの場を設定する必要がある。

(3) 通学の安全確保

- ・見守り隊や地域学校安全指導員をはじめとする多くの関係者のご尽力により、登下校中の子どもたちの安全が守られていることに改めて敬意を表する。
- ・一昨年、登校指導中の指導員が無謀運転の犠牲になってしまったが、地域安全学校指導員や見守り隊の活動は市民に大きな安心感を与えている。今後も学校、地域、警察の三者の連携の下、指導員自身も含めた安全な登下校指導が求められている。
- ・スクールバスの運行や冬期間運行バスの児童生徒の利用者数は何人位なのか。示して欲しい。

(4) 学習バスの運行

- ・校外学習のバス使用については年々増加しているが、どんな使われ方がなされているのか。1億円規模ということで、使用目的のおおよその割合などを明示して欲しい。
- ・運行内容ごとのバスの利用回数を示していただくと、利用傾向がわかりやすいのではないか。

(5) 学校ICT環境の整備充実

- ・機器の活用ができる教員は年々増加している。今後は実際の利用状況等を調査して、有効な手立てが共有できるような情報システムの構築が求められている。
- ・先生方が子どもたちの特性に応じて多様な実践をおこなうことができるためにも、ICT機器の整備を充実させてほしい。

(6) 教育の機会均等

- ・京野基金や利子補給、私学助成などについては給付交付型で国や県の制度を補完している。生徒・保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。是非継続して欲しい。
- ・教育の機会均等という面からも、継続的な事業の実施が望まれる。

(7) 私立学校等の振興

- ・減額せずに特色ある私立高等学校へ補助金を交付している点は評価できる。
- ・この補助金は、私学に通学している高校生や保護者にとっても意義ある支援対策費と思われる。是非継続して欲しい。
- ・教育の機会均等という面からも、継続的な事業の実施が望まれる。

6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進

- ・学校裁量交付金は、学校独自の活動を支援できる有効な事業で学校の満足度も高い。各学校の課題に応じた活動を展開できるので、学校運営に大きく資することができる。
- ・評価システムを整備して、事業予算を有効に使う手だても出来ているのも評価できる。
- ・学校ごとに地域や児童生徒の実態に応じた特徴的な活動が行われたと伺っている。可能な限り今後の継続が望まれる。

(2) 学校運営の公開と学校評価の推進

- ・児童生徒、保護者、教職員そして学校評議員や学校関係者評価などの評価結果は、関係者や地域に公開するとともに、課題になっている点については学校長が責任をもって今後の対応策や方向についても述べるのが重要である。
- ・学校評議員の人選のあり方や学校評議員会の開催時刻の工夫など、よりよい評価システム構築のために検討が行われてきている。多様な属性、多様な見解をもつ評議員によって、活発な意見交換・議論が行われるのが重要である。
- ・学校評議員や学校関係者評価の人選については、役職だけでなく積極的かつ建設的な意見を寄せて頂く方を大事していくことが学校発展の原動力となる。

(3) 教職員研修等の充実

- ・子どもの多様化に対応しうる、教員の資質向上を図るためにも、自主的な研修も含め、教員の研修に関する条件整備を今後も継続していくことが重要である。
- ・教員は常に職責を全うするために、研修と修養が義務付けられている。初任者、5年目、10年目の制度的な総合研修のほか、現代的な課題を含む様々な領域の研修を学ぶことでさらにベテランとしての力量を高めることができるのではないかと。

(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進

- ・引き続き、教職員ならびに部活動コーチに対して、体罰に関する正しい知識を持つこと、問題行動等への解決にはチームで対処することなどを徹底して行ってほしい。
- ・研修等を通じて、教員が自らの怒りを鎮めるスキルを持つことが肝要である。
- ・部活動の外部コーチといえども学校の関係職員であるという意識をもって、学校長や顧問教師は、年度当初に体罰禁止を確認すると同時に勝利至上主義に陥ることなく、教育的配慮をもって子どもを育成することをお願いすることが重要である。

(5) 学校施設の地域開放の推進

- ・昨年度と同様、学校施設の地域開放の推進が進められていると評価できる。
- ・学校施設は十分に開放されており、かつまた十分利用されており、学校と地域が関わる機会の提供にもつながっている。
- ・地域の利用者にとっては貴重な施設で、住民の生涯スポーツや生涯学習に大きく寄与していることは間違いない。

7 生涯学習の充実

(1) 生涯学習推進体制の整備

- ・より効率的・効果的に事業を行うためにも、他課との連携を深めていくことが重要である。
- ・総合文化センターは現在、酒田市街地の生涯学習の最大の拠点となっている。耐震改修工事は市民に安心感を与えると同時に一層の利用拡大につなげていただきたい。
- ・他団体の出前講座などを利用して、専門家による経済のしくみや企業の成り立ちについて

学ぶことは、職業観の育成や社会理解に大きく役立っている。

(2) 生涯学習社会の基盤づくり

- ・多様なニーズに対応した事業が展開されている。
- ・友人や仲間をつくりたいという学習活動の動機もあり、それが満足度に影響することもある。事業の性質によると思われるが、講座終了後のアンケートに、例えば友人・仲間あるいは知り合いができたかなどを伺ってみるのもよいのではないかと。
- ・各世代を対象にした生涯学習推進講座事業を展開して、多くの市民が活発に学習を継続されていることは評価できる。
- ・しかし、そのなかで圧倒的に参加率の低い青年講座についてはそのあり方や内容について見直しが必要である。青年のおかれている状況は厳しいが次世代を担う青年が育っていく環境づくりや支援が求められている。

(3) 生涯学習機会の提供

- ・春の市民茶会や生涯学習まつりは、市民の活動・学習の成果を生かせる魅力的な場になっており、それが、市民の方々の生きがいや自己実現へとつながっていると考えられる。
- ・市民大学講座も上記(2)の青年講座と同様に見直しが必要である。これまでの蓄積を基に進行中の公益大「地（知）の拠点整備事業」との連携など新たな取り組みが求められている。

(4) 地域活動の活性化

- ・連携を深めながら、相談しやすい体制の構築を目指して、各コミュニティセンターへ社会教育指導員や職員が出向している点について評価できる。
- ・現在、旧3町を含む地域活性化の活動は、支所やコミ振が中心となって活動している。社会教育指導員が青少年育成だけでなく、関係機関と連携して地域の文化や伝統を支援することができるような体制があれば望ましい。

8 図書館活動の充実

(1) 図書館機能の充実

- ・中央図書館をはじめ新刊の紹介のみならず、折々に特別展示コーナーを設けてそれに関する本や著者を紹介している点は評価できる。
- ・昨年度は改修工事の関係で入館回数は減ったが、貸出冊数は昨年の通りで市民の読書機会は確保されていると思われる。
- ・今後、図書館は移転してリニューアルすると聞いているが、是非図書館が酒田市の「新しい知の拠点」施設として市民が集えるよう企画立案して欲しい。
- ・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業におけるライブラリセンターとしての役割を、今後、幅広い年齢層の意見を取り入れながら検討していただければと思う。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・常設展示については子どもでも分かるような説明や解説をして欲しい。
- ・ギャラリートークについては多くの市民にPRして欲しい。
- ・光丘文庫は中町庁舎に移転予定と聞いているが、駐車場など利用しやすい環境を整備して欲しいし、子どもでも気軽に閲覧できるコーナーなども設置して欲しい。
- ・デジタルアーカイブは、利用者にとって使用しやすいものが望まれる。利便性の向上を図る必要があるとのことであるが、より多くの方の利用、多様な場所での活用を目指すためにも、ご検討いただきたい。

(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・「酒田市子ども読書活動推進計画」（第1期）に基づき、子どもの読書習慣の定着、促進に向けて、各事業が着実に進められ、一定の効果があらわれている。
- ・1人あたりの貸出冊数は着実に増えていることが表から読み取れる。
- ・「お話会」「赤ちゃん読み聞かせ教室」「親子絵本作り教室」の各事業では昨年を上回る参加者があり、子どもが読書に親しむ機会が増大した。
- ・今後も、本年3月に策定された第2次子ども読書活動推進計画に沿って、さらなる事業を展開し、本好きの酒田っ子、読書のまち酒田と呼ばれる気風を創って欲しい。

9 スポーツ・レクリエーションの推進

(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）

- ・今後も継続的にスポーツに親しむ機会の創出が求められる。
- ・スポ少や総合型クラブの参加者を増やして、多くの子どもたちが体力作りや精神的なたくましさを会得して欲しい。
- ・運動適性テストの結果を分析して、個々の能力を高めると同時に優れた適性を伸ばして、大きな舞台で活躍できる選手を育成することも重要である。

(2) 生涯スポーツの推進

- ・様々なスポーツ行事の参加目標値を達成したことは評価できる。市民の生涯スポーツに寄せる強い意欲が感じられる。
- ・スポーツ推進員を対象とした資格取得のための事業が実施されており、評価できる。
- ・本市の総合型クラブのあり方も過渡期に来ていると思われる。新しい方向の模索と組織の在り方については、引き続き十分議論する必要がある。

(3) 競技スポーツの振興

- ・今後も継続的に指導者を対象とした研修を実施し、安全にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えることができる指導者のレベルアップを図っていくことが重要である。
- ・世界大会への参加者は数名いたが、残念ながらオリンピックの出場者はいなかった。次期東京オリンピック・パラリンピックでは、是非本市出身の選手が出場して欲しい。
- ・競技力向上の前提は底辺の拡大である。未普及種目も含め、様々なスポーツに触れる機会を提供し、科学的な分析の下にトップ選手を育成して欲しい。

(4) スポーツ施設の整備充実

- ・翌年度のインターハイ開催を踏まえた国体記念館の照明LED化は日常的に利用する市民にとっても大変有り難い整備事業で、小体育館も併せて改修された。
- ・スポーツ施設も学校施設同様そろそろ傷んでくる時期にさしかかってきた。長寿命化をめざし、早目の点検と改修計画を作成してその目的を達成して欲しい。
- ・アセットマネジメントによる改修等をしていく必要があるとのことであるが、その際には、施設利用者のニーズの把握や、施設利用者との情報共有に努めていただきたい。

10 芸術文化活動の推進

(1) 芸術文化の振興

- ・市民芸術祭や市民会館は、市民の活動・学習の成果を生かせる魅力的な場になっており、それが、市民の方々の生きがいや自己実現へとつながっていると考えられる。今後も市民参加型の事業の継続的実施を期待する。

- ・庄内文化賞はともかく阿部次郎文化賞はその対象が限られていることから対象を拡大するか庄内文化賞と一本化しその一部門とするような区分をしたらいかがか。
- ・希望ホールの利用率は極めて高い。今後も芸術文化の公演や発表の場として貴重である。できれば、施設の一部になぜ「希望」なのか分かるような展示説明が欲しい。
- ・市民芸術祭に、中学生、高校生の作品が出品できれば、現在停滞している中高の芸術系部活動の後押しになるし、次世代への継承につながるのではないか。

(2) 市民の鑑賞機会の充実

- ・各施設の館長、学芸員、職員ならびに関係者の方の熱意・努力に敬意を表する。参加型事業の実施など、教育普及事業に今後も力を入れてほしい。
- ・施設の特徴を利用した様々な公演や特別展示が多くの市民の参加を得ている。
- ・土門拳記念館の入館者数は減っている。全国に発信できる貴重な施設であるが、市民の方々からリピーターとなって支えていくような仕組みと魅力的な展示が必要である。
- ・次年度から、それぞれの事業や施設の事業予算（管理運営費）等の経年変化を示して欲しい。

(3) 青少年の芸術文化活動の充実

- ・市内小学校におけるアウトリーチ及びワークショップの実施、博物館見学時における学芸員の説明など、学社連携の取り組みが実施されている。
- ・学校教育では現在アクティープ・ラーニング(*)が普及しているが、文化芸術の理解も同様、ワークショップやプロの指導体験が子どもの主体性を育む重要な手法となっている。
- ・こうした事業は手間も費用も掛かるが逆にその教育的効果は計り知れないものがある。小学生に限らず中学校の出前講座も是非手掛けて欲しい。

(*)アクティープ・ラーニングとは、グループ学習を活用した体験型の学習スタイル。

11 歴史・文化遺産の保存と活用

(1) 文化財等の保存と活用

- ・酒田の歴史文化への理解につながる史跡文化財の見学ツアーを積極的に開催して欲しい。またそうした史跡や文化財を紹介できるボランティアガイドの養成も重要である。
- ・入館者数を増やすとあるが、全体状況が分らない。次年度からは関連施設の一覧とそれらの管理運営費や入場者数の経年比較を掲載して欲しい。
- ・文化財施設について、点検結果・自己評価の部分にあるように、引き続き、耐震診断も含めた全体の状況把握に努めてほしい。
- ・文化財の改修は、専門職人の確保と同時に時間と費用がかかる場合が多いので早目に点検してその改修計画を立てる必要がある。

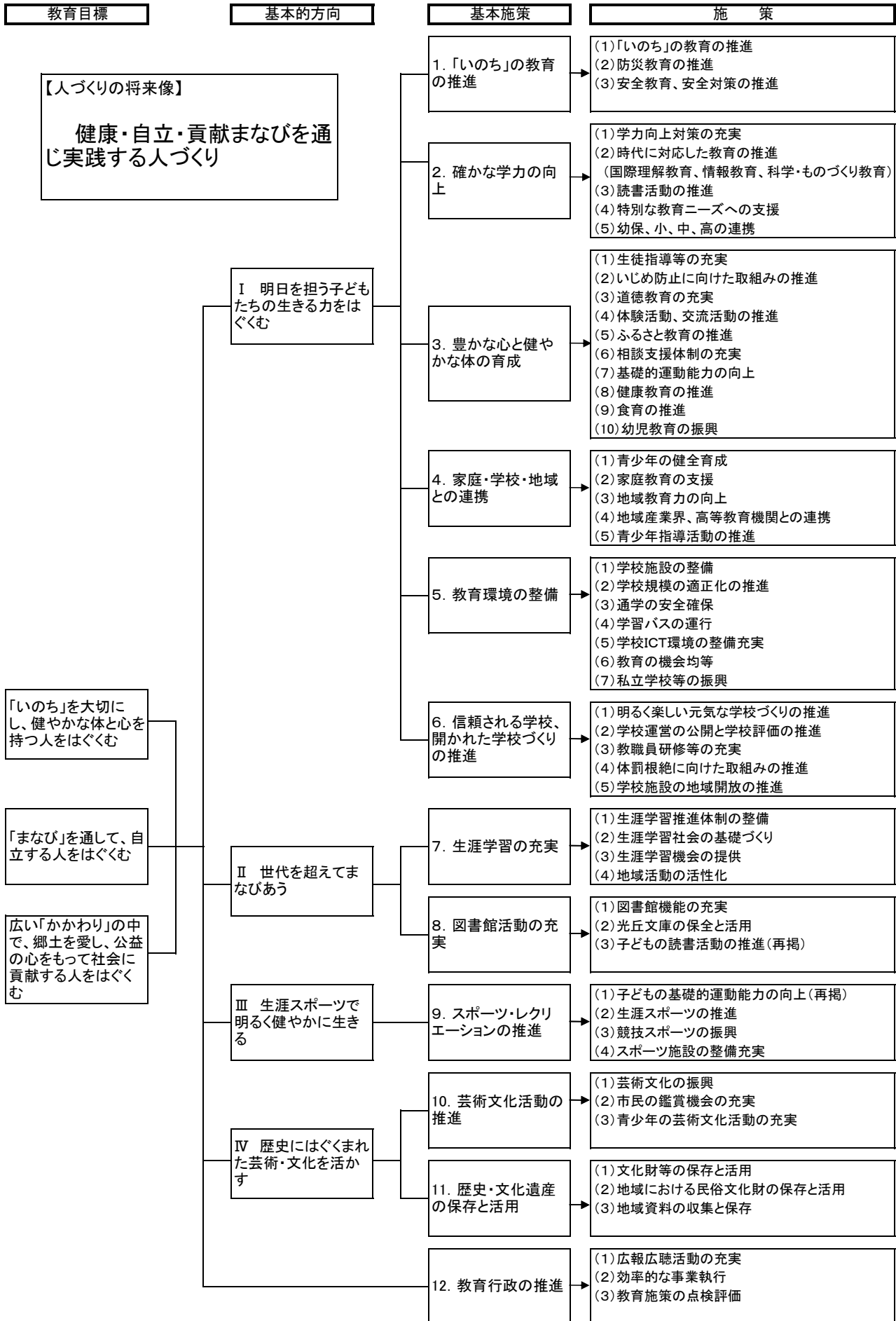
(2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・映像記録や活動記録を「後継者育成などに活用を図っていく」ということであるが、具体的にどのような形で活用をしていくのか、期待したい。
- ・素晴らしい伝統芸能の祭典「民俗芸能フェスタ」の入場者数も減少傾向にある。今後は、ワークショップを取り入れたり、半日程度の祭典にするなど運営の工夫が必要ではないか。
- ・松山能は岩手の中尊寺に次ぐ能の北限と聞いている。松山能や黒森歌舞伎を北東北はじめ県外に発信し、交流の機会をつくるのが将来につながるのではないか。また能舞台が常設されている松山城址館の活用も課題である。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・市立資料館、松山文化伝承館、城輪柵跡の見学では、学校教育との連携が行われている。
- ・国や県の文化財指定を受けるためにも専門職員の養成・配置が急務ではないか。
- ・市立資料館や文化伝承館はそれぞれに立地条件に課題があるが、様々な努力をして入館者を増やしつつあることは評価できる。後者は指定管理になったが行政側の指導助言も運営委員会等を通じて継続的に進めて欲しい。
- ・阿部記念館には阿部次郎のみならず生物学者阿部襄(のぼる)や数学者佐々木重夫の貴重な標本や資料が展示してある。それらの活用と保存も検討して欲しい。

酒田市教育振興基本計画後期計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命と生き方を大切にする「いのち」の教育を推進し、健やかな体と心を持つ人を育てる。 ・自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と他の人のいのちを尊重する気持ちを育てる。 ・命を守る安全教育を推進し、児童生徒自らが主体的に判断し、行動できる能力を高める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と自らのいのちを守るために主体的に判断し、行動できる能力を高めていく。 ・命と生き方を大切にする学校づくりと創意ある教育課程の編成を推進する。 ・自尊感情と思いやりの心を育む道徳教育、社会性を育む集団づくりと自己実現につながる生徒指導、いじめのない学校づくりを推進する。 ・日常の安全に関する知識や対応・行動の仕方についての教職員の資質の向上と児童生徒の危険回避能力の育成を図る。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○赤ちゃん登校日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校（6年生）と中学生を対象し、2～3組の親子（赤ちゃん）とコーディネーター（1人）とともに学校を訪問して、子育てについての話や子どもへの思い等を聞いたり、赤ちゃんに触れ合ったりする。 小学校6校、中学校2校で20回開催。総参加人数574人。 <p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や帰りの会等で振り返りの時間を大切にし自他の良さを見つめる習慣化を図った。（小学校） ・鮭の研究活動や体験を通して生命のつながりを実感させる実践を行った。（小学校） ・担任と養護教諭が連携した「生命の誕生」「体の発育」などの学習を通して、生命の尊さに気づき、自他を大切にする心や家族への感謝の心を育てる授業に取り組んだ。（小学校） ・授業の中に話し合い活動を取り入れたり、班会・班長会・拡大班長会を隔週で開催し、他者との関わりを大切にた取り組みを行った。（中学校） <p>○教職員一人ひとりが実際の場面で対応できるようにAED操作、心肺蘇生の講習会で研修を深めた。また、アレルギー対応についても各学校で研修会を開くなど対応できるように取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急講習会（1回 参加者 教職員26名） ・各小学校でプール指導前にPTAと連携して救命救急講習会を実施し、心肺蘇生やAED操作の講習を行った。 <p>○離岸流による事故の防止の啓発文書を配布し、各学校で児童生徒への指導を行った。</p>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○赤ちゃん登校日の講師になっていただいた親子に集まっていただき、講座に参加しての感想や意見、要望等の意見交換と、日頃の子育てについての悩み等の情報交換をする会を実施した。</p> <p>○児童生徒が安全、安心に学校生活を送ることができるように、「いのち」を大切にする学校づくりを「学校教育の重点」の最重要課題として推進した。</p> <p>○離岸流、熱中症、蜂等の有毒生物等に対する事故防止について、心配される時期に適時に通知し、学校での指導に活かせるようにした。</p> <p>○市内全小中学校教員を対象にしての救命救急講習会は「子どもの命を守る安全教育推進事業」で27年度より実施した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○赤ちゃん登校日では、子どもたちは緊張しながらも赤ちゃんを抱っこしたり、おもちゃであやしたり、一生懸命に向き合っていた。その中で、命の重さや大切さを感じるとともに、自分もこんなふうに愛情いっぱい育ててもらったことを実感し、親へ感謝する気持ちも生まれていた。中学生の実施が1校から2校に増えたが、中学校での実施が増えていけば、人生設計を考えるときに具体的イメージが湧きやすいのではないと思われる。</p> <p>○「いのち」を大切にする学校づくりに向けて各校で取り組みを行い成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の事故を防ぐことを何より優先させるために、小規模校でも「組織」を活かし、全員考え全員で対応する体制を作り上げ、安全に関する指導の充実を図ることができた。(小学校) ・授業、生徒会活動、行事等の様々な場面で活躍し生き生きと取り組んでいる生徒の姿をたくさん見ることができた。(中学校) <p>○27年度は生命に関わる重大事故はなかったが、交通事故、熱中症、校内・外での負傷事故、蜂・蛇などの有毒生物による事故があり、今後も事故の未然防止に向けて取り組んでいく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○赤ちゃんを実際に抱っこしたり、母親から子育ての苦労ややりがいを聞く事で、命の重さや、生まれてから今まで親から育ててもらったことを考える機会となっている。事業の良さを未実施校にも伝えながら今後も継続していく。</p> <p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行うことができた。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(2) 防災教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる。 ・児童生徒が適切に避難できるように各校の防災マニュアルと防災管理体制の見直しを図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に適切な対応ができるように、教職員への防災教育研修会等を実施する。 ・各校の防災マニュアルの見直しを行うための、学校防災マニュアル作成ハンドブックを作成する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの命を守る安全教育推進事業【予算現額424千円・支出済額277千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの命を守る安全教育推進会議」の開催（年2回） ・児童・生徒への防災教育及び教職員への防災管理研修（小学校4校、中学校1校） ・防災教育研修会（2回 参加者 教職員42名） ・救命救急講習会（1回 参加者 教職員26名） 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○防災教育アドバイザーによる児童生徒向けの講話では、地震の基本的な知識や避難行動の留意点を、キーワードとしておさえ理解を深めることができた。また、画像を適切に使い、視覚をとおして理解を深めることができた。</p> <p>○各校とも、毎年災害に応じた避難訓練を実施しているが、その基本的な避難の仕方を今回の研修会で改めて見直すことができた。児童は、災害の恐ろしさを実感するとともに、万が一に備えて、しっかりと学ぶことができた。</p> <p>○地域での避難は小学校学区のコミュニティが中心となる。避難場所、避難経路を市民全体が理解し、避難は学校だけでなく、市民全体のことと位置づけなければならない。また、他課との連携のもとコミセンごとに住民参加型でハザードマップを使ってワークショップ形式の集会を開くなど、児童生徒の命を守る取り組みは、学校、家庭、地域、関係各機関が連携して行う必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度 評価	A	○大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる取り組みを進めることができた。	
【参考】26年度 評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(3) 安全教育、安全対策の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校での作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場面を想定した訓練を実施し、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに各校から提出されて通学路の危険箇所をもとに安全点検を行った。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員による学校訪問を通じて、登下校の様子や通学路の要注意箇所について情報交換を行った。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○津波や土砂崩れといった各校が設置されている場所の特性に応じた避難の在り方が見直されている。保護者への引き渡し訓練、保育園やコミュニティセンターとの合同訓練等、家庭や地域と連携した取り組みを行った。</p> <p>○改正道路交通法にあわせて自転車のルールやマナーについて各校で繰り返し指導を行い、交通事故の未然防止に努めた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになってきている。「児童向け行動マニュアル」と「教職員向け行動マニュアル」を相互に関連付けながら、様々なケースに対応した防災計画を立てている学校が増えている。</p> <p>○年度始めの「通学路の安全点検」と、「学区安全マップ」による経年の点検箇所を照らし合わせながら、危険地点の洗い出しとその対応を行うことができた。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式及びお礼の会」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p> <p>○自転車使用について違反者、加害者にならない指導を各校で丁寧に繰り返し行っていく。</p> <p>○自転車保険の加入についても検討する必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図ることができた。</p> <p>○交通事故など事故の防止に向けて繰り返し指導を行っていく必要がある。</p>	
26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(1) 学力向上対策の充実		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の能力・学力を把握し、教師の授業改善や読書活動の充実を図る取り組みを通して、児童生徒の学力向上に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し「確かな学力」を育成するために授業改善を図る。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 ・全教科に、全国標準以上の学力を目指す。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した54回の授業研究会に延べ161名の指導主事を派遣し、授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額15,539千円・支出済額14,706千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）やNRT（標準学力テスト）については学力の状況と学級の間関係等を把握し、指導を改善するために活用している。 ・小中授業力向上研修会では、算数・数学に特化し、六中学区の小中学校それぞれで授業改善へ向けた実践的な研修を行った。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額748千円・支出済額592千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域ごとの研究部で授業研究会や研修会を延べ67回実施した。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○市内全小中学校において、小学校1年生から中学校3年生を対象にQ-Uを実施し、児童生徒の学級の間関係と学校生活の意欲に関する実態を把握し、指導改善に活用した。</p> <p>○酒田の子どもたちの学力向上について協議するため、「酒田の子どもたちの学力向上推進委員会」を設置した。2回実施し、実態等を分析しながら具体的な学力向上の施策について示唆をいただいた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○Q-Uについて、市全体や各学校で活用するための研修会を実施し効果的であった。希望した17校へ講師を派遣した。</p> <p>○学力向上推進会議を開催し、学力向上対策について有識者からご意見をいただき、様々な視点から具体的な施策について示唆をいただいた。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、公開授業を通して、思考力を高めるための言語活動などについて理解を深めることができた。延べ約110名参加。</p> <p>○算数・数学に特化した研修機会を設けているが、中学校の英語も課題である。</p> <p>○NRTについては、各担任、学校が、個々の児童生徒やクラス、学校全体、市全体の学力の状況を把握し、指導を改善するために活用している。</p> <p>○社会教育文化課、図書館等とも連携し、家庭で学習時間と読書の時間が確保できる環境づくりを進めていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度 評価	B	<p>○Q-UとNRTの授業改善への活用については、教員の理解が深まってきており、学級づくり、学力向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>○国語は、読書量も増え一定の成果は出ているが、算数・数学、英語はまだ成果が出ていない。家庭での学習時間も全国に比べると少ないことから家庭と連携した取り組みを検討していく。</p>	
【参考】 26年度 評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																			
基本施策	2 確かな学力の向上																			
施策	(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）																			
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成27年度 担当部署	学校教育課、管理課																	
施策の目的及び目標																				
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーションへの興味・関心を高めるとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」や四世交流事業等を通して、国際感覚の基礎を身につける。 情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。 <table border="1" data-bbox="268 678 1203 790"> <thead> <tr> <th colspan="2">算出方法</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H31(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">授業でICT機器を活用できる教員の割合</td> <td>小</td> <td>83%</td> <td>87%</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>55%</td> <td>76%</td> <td>78%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。 言語や生活習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行うことで、異文化に対する理解と認識を深め、国際社会に貢献する豊かな人間形成に資する。 				算出方法		H25	H26	H27	H31(目標)	授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	83%	87%	90%	100%	中	55%	76%	78%	100%
算出方法		H25	H26	H27	H31(目標)															
授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	83%	87%	90%	100%															
	中	55%	76%	78%	100%															

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

- 外国人英語講師招致事業【予算現額13,839千円・支出済額12,782千円】
 - 中学校では外国語週4時間に対応してALTとのTT（ティーチング）を実施し、ネイティブイングリッシュに触れる機会をもった。小学校では外国語活動が位置づけられている5,6年生全クラスでALTとのTTを12時間実施した。
- 中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,680千円・支出済額6,590千円】
 - 22名（男子10名、女子12名）の中学生をオハイオ州デンプシー中学へ派遣した。体験入学やホームステイでは、団員が積極的に国際交流を図り、国際的な視野を広げることができた。
- 中村ものづくり事業【予算現額2,037千円・支出済額2,037千円】
 - チャレンジものづくり塾（年間8回開催、塾生32名）、サイエンス発明教室①（5領域89名）サイエンス発明教室②（2領域82組）、ものづくり出前授業（延べ22校941名）を実施した。
- 理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。
- ロサンゼルス四世交流事業【予算現額2,734千円・支出済額2,670千円】
 - 平成27年8月2日から7日にかけて、ロサンゼルス四世バスケットボール協会役員、ロサンゼルス四世選手（男子12名・女子12名計24名）及び選手の家族等の計123名を受け入れ、交流試合をはじめ、市民、中学生たちとのさまざまな交流活動を行った。

月日	主な内容
8月2日（日）	歓迎会・対面式 ホームステイ①
8月3日（月）	一日観光（市街地～八幡地域～松山地域） ホームステイ②
8月4日（火）	日本文化体験（茶道・書道）、文化施設見学 市内散策（中町周辺） ホームステイ③
8月5日（水）	交流試合1（四世チームvs選抜学校チーム）、スタッフチーム試合、 交流試合2（四世チームvsホストファミリーチーム） ホームステイ④
8月6日（木）	交流試合3（四世チームvsエンデバーチーム）、キッズチーム試合 日本の遊び・アメリカの遊び交流、庄内米歴史資料館見学、送別会 ホームステイ⑤
8月7日（金）	見送り

平成27年度における改善点・新たな取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。 ○2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業の内容を整理・統合し、参加対象を明確にした。 ○サイエンス発明教室のコースに情報分野の内容を新設し、新しいニーズにこたえるようにした。 ○ハーバーラジオと連携するなど、他機関との連携を深めることができた。 	
事業の効果・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ○小学校への12時間ALTを派遣し、児童が英語に慣れ親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができた。 ○「はばたき」では、デンプシー中学校の中学生に日本文化を英語で紹介したり、体験させたりして積極的にコミュニケーションを図ることで、英語への興味・関心を深めることができた。また報告会の実施と報告集の作成が生徒の意欲を高め、地区英語弁論大会や英語検定への挑戦につながっている。 ○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。 ○中村ものづくり事業の2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業を通じ、ものを創ることの喜びを実感すると同時に、科学への興味関心を高める機会となった。 ○ロサンゼルス四世交流事業では、ロサンゼルス四世選手を市内中学校のバスケットボール部生徒を中心にホームステイで受け入れ、また、市内各団体の参加協力を得て、酒田の特色を生かした国際交流、文化体験活動を行いながら相互理解を深めることができた。 	
点検結果・自己評価（今後の方向性）	
27年度 評価	A
【参考】 26年度 評価	A
<ul style="list-style-type: none"> ○国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせることができた。 	

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2 確かな学力の向上				
施策	(3) 読書活動の推進				
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署		学校教育課	
施策の目的及び目標					
○目的 ・読書活動を推進するため、本との多様な出合いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の整備と充実を目指す。					
○目標					
算出方法		H25	H26	H27	H31目標
学校図書室貸出冊数 (1人当たり月平均)	小	8.8冊	9.2冊	9.9冊	10冊
	中	0.63冊	0.73冊	0.78冊	2冊
全国学力・学習状況調査の質問53「読書は好きですか」回答による	小	小6 80.4%	小6 74.1%	小6 78.2%	小6 80.0%
	中	中3 74.2%	中3 73.6%	中3 71.2%	中3 80.0%
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○各小中学校への図書専門員の配置 ・29名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書環境整備を行った。					
○図書購入費の各小中学校への配当 ・小学校15,266千円(充足率116.5%)、中学校12,126千円(充足率108.9%)の図書を購入した。					
○図書館教育・読書指導研修会の実施 ・「リテラチャーサークル」という「グループで同じ本を役割分担して読み、読み合った内容を語り合うことで、1人1人の読書の質を高め、読書を豊かにする取り組み」について学んだ。講師の指導の下、教員と図書専門員がグループを組み、実際に体験して理解を深めた。					
平成27年度における改善点・新たな取り組み					
○「家読」の推奨 ・学校において多様な読書活動を展開するとともに、家庭と連携しながら、本とふれあう機会の充実を図った(メディアダイエットの取り組みの1つとして、家庭での読書を奨励)。					
事業の効果・課題					
○図書専門員の間で管理システムの活用や読書環境整備に対する意識が向上し、特に小学校においては読書量や読書意欲が高い水準で維持されている。					
○どの学校でも集団読書の機会(読み聞かせや朝読書)を工夫し、読書意欲向上を図っている。					
○図書館教育・読書指導研修会の後、各校では内容の伝達がなされ、日々の授業改善や図書館運営の工夫につながった。図書資料の活用を効果的に位置付けた授業づくりが課題である。					
○小学校において、学校図書を年間1人100冊以上借りている学校が17校ある。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
27年度評価	B	○小学生はどの学校でも読書に力を入れており、本を読む習慣が身につけてきている。 ○中学生の読書が課題となっている。忙しい生活の中で本に親しむことのできる環境を整えることが必要である。			
【参考】26年度評価	B				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒等に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に、相談や支援が組織的に行われるようにする。 ・教育支援員等の適正な配置により、個別のニーズに沿った指導・支援を行う。 ・日本語指導講師等の派遣により、日本語や病気での困難さを抱える児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○教育支援体制推進事業【予算現額53,949千円・支出済額52,170千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援員40名を小学校19校・中学校7校に配置した。(6時間×200日、研修3回) <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額4,479千円・支出済額4,445千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター等を対象とし、研修会を実施した。(2回) ・保護者研修会(ペアレントトレーニング)を開催した。(5回×1グループ) ・2名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導を実施した。(26校延べ273回) H26は256回 <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,242千円・支出済額1,242千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師を435回派遣した。(対象児童数6名) 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○教育支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の研修会・情報交換会を通して、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への適切な対応について研修をすることができ、対象児童生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。 ・学校と巡回相談員との連携が進み、より実践的で充実した対応をすることができた。 <p>○日本語指導講師等派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の困り感に応じた対応をすることにより、児童生徒が学校での授業や友達とのコミュニケーションに適応することに大いに役立っている。 <p>○各種研修の実施や、酒田特別支援学校や福祉課発達支援室との連携により、各小・中学校や保護者との相談等のケースを多く設定し、丁寧な対応ができています。</p> <p>○学校と巡回相談員との連携がスムーズに進み、保護者との面談や担任への指導方法の助言が効果的に行われている。巡回指導の依頼が増えていることから、個別のニーズに沿った指導・支援を行うため巡回相談員の増員が望まれる。</p> <p>○日本語の困り感を抱えた児童生徒それぞれに合った対応で、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
27年度評価	A	○教育支援員は、学校の実態に配慮し配置を行った。児童生徒の状況に細やかに対応して支援を行っている。教育効果が大きいと考えている。学校のニーズも非常に高い。	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した児童・生徒への支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮した指導に生かす。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを重視した指導に生かす。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で、幼保小の今後の連携のあり方について研修した。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）において、幼保小の接続期に保育士・教師ができることについて意見交換したり、連携が密に行われている保小の実践事例をもとに、東北公益文科大学の國眼眞理子先生から、幼保小の相互理解を深めるための取り組みについて講話をいただいた。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼保小の職員が互いの教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察することができた。</p> <p>○「小中授業力向上研修会」として算数・数学に特化し、泉小学校と第六中学校を会場に研修した。</p> <p>○酒田東高等学校で行われた「中高教員相互派遣研修」事業により英語教員が互いに研修を深めることができた。</p>			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、これからの幼保小のスムーズな接続について話し合い、方向性を確認することができた。</p> <p>○幼保小指導者研修会では、グループ演習を取り入れ、活発に話し合うことができた。幼保小の先生方が、それぞれの子どもの見取り方を出し合い、さらに伸ばしていくために話し合うことができた。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、日常の実践につなげることができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、酒田市の課題である算数・数学の学力向上に向けて、小・中学校の教職員が互いの授業を見合い、指導のポイントについて話し合うことができた。講師の先生からは全国学力学習状況調査（全国学テ）のB問題をもとに、主体的な学習や活用力について助言をいただいた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○幼稚園、保育園と小学校における子どもの見取り方や教育観の理解と連携は進んでいる。</p> <p>○小・中学校の連携は進みつつあるが、学習、生徒指導面で学校区ごとに連携を強化する必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(1) 生徒指導等の充実		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な自尊感情と響き合うあたたかな心をはぐくむ生徒指導の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを目指すと共に、1人1人の自尊感情を高め、自己実現につなげる。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校教育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育の重点に沿った各校の経営構想及び取り組みの重点を立案する際、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力）の向上を大切にしよう指導した。 <p>○心が通い合い高め合う集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市生徒指導主事会議、小学校生活指導連絡協議会、中学校生徒指導連絡協議会において情報交換を行い、児童生徒の主体性を大切にしたい児童会、生徒会活動の推進を指導した。 中学校生徒指導主事を年2回開催し、各校の実態と取り組みを共有し合うことで、事故や問題行動の未然防止と適切な対応（生徒のつながりの広域化への留意等）につなげている。 教育相談事例研修会を中学校区単位で開催し、小中合同で児童生徒理解を深めている。実例をもとに話し合い、抱える課題の背景を探りながら、子どもを見る目を磨いている。 教育相談事例研修会を中学校区単位で開催し、小中合同で児童生徒理解を深めている。実例をもとに話し合い、抱える課題の背景を探りながら、子どもを見る目を磨いている。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）により、学級における人間関係と1人1人の集団に対する思いを把握し、1回目と2回目の変容もふまえて指導に生かしている。 			
事業の効果・課題			
<p>○特別支援教育への理解と校内体制整備が進み、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。</p> <p>○学校行事、児童会・生徒会活動では児童生徒の主体性を生かした活動が展開されている。</p> <p>○丁寧なアンケート調査を複数回行うことで、早期発見に向けたアンテナが鋭くなっている。認知件数は増加しているものの、保護者と連携したすばやく適切な対応がなされてきている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思うか」という質問項目では、「そう思う」及び「どちらかというと思う」の割合が小学校で全国平均を上回っている。中学校における自己肯定感・自尊感情も高めるべく、学校への指導と支援を進めていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の分析と結果考察により、全校体制で心が通い合い、高め合う集団づくりの構築を目指して取り組んでいる。□</p> <p>○授業を通じた生徒指導を今後も意識し、全員参加を保證した「わかる授業」、自己有用感・自己存在感を感じられる授業づくりを進めていく。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(2) いじめ防止に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、さまざまな活動に取り組めるようにいじめ防止を推進する。 市、学校、地域住民、家庭、その他の関係者が連携し、いじめの問題を解決する。□ <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題を学校のみならず、市民及び社会総がかりで進め、いじめの未然防止、早期発見、対応等をより実効的なものとなるように推進していく。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市いじめ問題対策連絡協議会の開催（11月）□</p> <ul style="list-style-type: none"> 市長による委員の委嘱と「酒田市いじめ防止基本方針」に基づくいじめの防止等のための有効な対策、情報交換、啓発事業その他の必要な事項に関する協議を行った。□ <p>○酒田市いじめ問題対応委員会の開催（2月）</p> <p>□・対応委員会は酒田市教育委員会が主体となって調査を行う場合における重大事態に係る事実関係に関することの調査及び審議を行う組織である。□</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育長による委嘱と重大事態発生時の具体的な動きについて協議を行った。□ <p>○中学校生徒会連絡協議会支援事業【予算現額90千円・支出済額90千円】□</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会の分科会で「いじめ撲滅」をテーマとした話し合いが行われた。各校の取り組みを紹介し合い、「よりよい人間関係をつくるための生徒会活動」について協議し、今後の活動の手がかりを各校に持ち帰った。□ <p>○児童生徒だけでなく保護者にもいじめアンケートを実施し、学校と家庭が連携して早期発見と適切な対応に取り組んだ。</p>			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○平成27年3月に制定された「酒田市いじめ防止対策の推進に関する条例」に基づきいじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」「酒田市いじめ問題対応委員会」の設置と第1回目の会議を開催した。委員からは、それぞれの立場から意見をいただき、酒田市の児童生徒のいじめの防止と対応について確認した。□</p>			
事業の効果・課題			
<p>○各校では丁寧なアンケート調査と面談を数回行っている。早期発見に向けた教職員の意識が高くなり認知件数は増加しているものの、保護者と連携し迅速に対応を行っている。</p> <p>○いじめのない学校づくりに向け、授業、学級活動、児童会・生徒会活動で児童生徒の主体的な活動を充実させ、子ども同士が支え合い、相談しあえる関係を育てる活動が実践されている。</p> <p>○「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」「酒田市いじめ問題対応委員会」の設置で、学校だけでなく地域、関係機関・団体の大人がいじめについて協議し、実際に対応できる環境を整えることができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○各学校ではアンケート調査や面談など未然防止、早期発見に向けた取り組みを行い、初期段階でいじめを認知し、解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>○未然防止、早期発見、適切な対応ができる各学校のいじめ防止基本方針の見直しを図り、学校・家庭・地域が一体となったいじめ防止に向けた取り組みを今後も推進していく。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(3) 道徳教育の充実		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じた道徳性の向上並びに「公益の心」の涵養を目指し、道徳教育の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に響く資料を活用した、自己の生き方について考えを深める道徳授業の工夫を促す。 ・学校や地域で自分にできることを考え、実践することを通して「公益の心」を育む。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○要請訪問を通じた授業づくりと授業改善に向けた指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や道徳教育推進教員の情報交換会の中で、学校の重点や各学年の重点に沿った計画的な指導を行うように指導した。 ・道徳の教科化に向けて、児童生徒が主体的に取り組む「考える道徳」に向けた授業づくりを助言した。 <p>○地域教材の活用と地域貢献活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生用「わたしたちのまち さかた」や中学生用「ジュニア版酒田の歴史（改訂版）」などの地域教材を活用して、先人の知恵と功績に学び、ふるさとへの理解と愛着を深めている。 ・小学校では多くの学校で地区ボランティアへの参加がなされており、中学校では地域貢献活動を企画立案の段階から自治会と協力し、中学生が主体となって行っている学校が増えている。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○道徳教育の充実に向けた、地区内の統一した取り組みと実践の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28東北地区道徳教育研究協議会（酒田大会）の開催に向けて、教育研究所や道徳教育推進教員の研修会を中心に「資料の活用と開発」「自他の関わりを見つめる」「体験活動との関連」と三つの柱とした道徳授業の工夫と改善について検討を進めた。 			
事業の効果・課題			
<p>○子どもたちの主体的な取り組みを促し、考え、議論・討論する道徳授業づくりが進んでいる。</p> <p>○公益の心の涵養につながる勤労奉仕的体験活動及び社会奉仕活動が、多くの学校で実施されており、事前事後に関連した道徳授業を行うことで体験的な学びが深められている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「地域とのつながり」に関する質問項目でも、肯定的な回答が小中共に全国平均を上回っていた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	○各学校での道徳教育に加え、飽海地区、市内の学校で授業公開を行い、考え、議論・討論する道徳の授業づくりを推進している。	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課

施策の目的及び目標					
○目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。 ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。 ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。 					
○目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心と健やかな体を育み、自然の営みへの感謝の心の育成を図る。 					
算出方法					
		H25	H26	H27	H31
交流活動参加 児童の満足度 (アンケートによる)	飛島いきいきスクール	95%	100%	96%	100%
	自然体験学習	90%	92%	92%	100%
	少年の翼	97%	100%	100%	100%

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額1,028千円・支出済額702千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・3小学校、児童114名参加 (H26:4校215名、H25:6校328名、H24:9校455名) 					
○自然体験学習推進事業【予算現額2,680千円・支出済額2,595千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・11小学校、児童554名参加 (H26:8校408名、H25:7校367名、H24:4校213名) 					
○少年の翼交流事業【予算現額3,572千円・支出済額3,103千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄訪問:12月13日(日)~17日(木) 5年生18名、6年生14名、受け入れ:兼次小学校 ・受け入れ:2月10日(火)~13日(土) 今帰仁村 6年生35名、交流担当校:浜中小学校 					
○「酒田っ子ミステリーバスツアー」					
<ul style="list-style-type: none"> ・7月31日開催、参加者33名、夏休みの1日を使い学校や家庭を離れ団体行動をすることで生きる力を養った。また地元の良いところや企業を見学し、郷土愛を醸成した。 					
○「冬遊びお泊まり会」					
<ul style="list-style-type: none"> ・2月20日~21日に平田生涯学習センターで開催、参加者21名、ボランティア8名、外遊びや調理実習等で集団行動を行った。高校生が小学生の面倒をみる経験をとおり成長することができた。 					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○自然体験学習推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシみらい館の見学を雨天プログラムではなく、通常のプログラムに組み入れ、猛禽類の学習に力を入れた。 ・ほたる観察を実施する地区の住民に事前に伺い、活動の内容を説明して、理解を得た。 <p>○「酒田っ子ミステリーバスツアー」（新規事業）</p> <p>○「冬あそびお泊まり会」に文部科学省で組織する「土曜日教育ボランティア応援団」の出前事業を活用。日本証券業協会（東京）からの講師派遣により実施した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○離島の自然・歴史・文化等について学び、島民と触れ合うことを通して、飛島のよさについて児童自ら考えるとともに、自然や人とのかかわりの大切さを実感することができた。</p> <p>○本市の鳥海高原を利用した体験活動を行うことで、自然に触れ合うことの素晴らしさ、酒田の自然の美しさを実感することができた。また、仲間やボランティアスタッフとのふれあいを通して、人とのかかわりの大切さを学ぶことができた。</p> <p>○少年の翼については、体験後の「報告会」と「記録集」によって、交流を通じた相互理解と友好が図られたかについて振り返る機会をつくることができた。アンケートによる満足度の把握と合わせて、児童の成長につなげたい。</p> <p>○修学旅行の時期と重なり、航空機の確保が難しかった。今後も航空機の確保には課題が残る。</p> <p>○「酒田っ子ミステリーバスツアー」では花王、エプソン、ヨーグルト工房などを見学し、地元企業見学を取り入れることで職業観を養い、ふるさと学習も行った。</p> <p>○「冬あそびお泊まり会」では、冬遊びの野外活動や調理実習、布団敷きや入浴、掃除などの集団行動に加え、株式会社のしくみについての座学を導入したことでメリハリができた。</p> <p>○ボランティアの中高生が、去年の経験を活かしながら主体的に子どもをサポートすることができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○飛島、鳥海山の自然に触れることは子どもたちのたくましい成長につながっている。今後、プログラムの見直しや予測される様々な危険に対応できるよう安全対策、環境整備を行っていく。□</p> <p>○少年の翼では、沖縄の小学生との交流を通して互いの地域を理解し合うことができた。</p> <p>○子ども達が自然の中で遊び、自分たちで食事の準備をし、中高生ボランティアや学校、学年の違う児童と2日間過ごしとても良い経験をしている。</p> <p>○民間団体や県の自然体験事業などが増えていることから、平成25年度よりチャレンジ冒険団を休止した。新たな取り組みとして実施した冬あそびお泊まり会や、酒田っ子ミステリーツアーでは参加者も多く集まり、ニーズがあることを確認した。気軽に参加できる内容で企画しているところが、参加者が集まる要因と考えている。中高生ボランティアの育成にも有効な事業であり人材育成の事業として継続して実施していく。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を理解し、ふるさと（地域）への愛着を育む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍している方々との交流や地域の歴史や文化等を学ぶことで地域理解し、ふるさと（地域）への愛着を持つ児童生徒の育成を図る。 ・鳥海山と飛島の自然に触れ、その成り立ちや生態系、人々の暮らしについての学習を推進する。 ・地域の職場での体験活動や地域の方々をゲストティーチャーとして招いての講演会の実施など、地域の特色や資源を活かして教育活動を推進する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○副読本「わたしのまちさかた」の編集と授業での取り組み</p> <p>【予算現額2,910千円・支出済額2,881千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年社会科で使用する副読本「わたしのまちさかた」をもとに、地域産業、地理的環境、地域発展に尽くした先人の働きなどについて学習し、「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を育てる学習に取り組んだ。 <p>○総合的な学習で「ふるさと酒田」の良さを発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で地域文化、産業、歴史、人との関わりなどについて学習し「ふるさと酒田」の良さを発見する学習に取り組んだ。 ・飛島いきいき体験スクール支援事業では、子どもたちが飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学び、郷土を愛し、大切にしようとする心を育む体験ができた。 ・自然体験学習推進事業では、生まれ育った酒田の自然を体験し、鳥海山の雄大さに触れるとともに、仲間と協力して活動する力の育成を目指して活動を行った。 <p>○「私たちに励ます吉野弘のことば」講座3回104人、朗読会219人、講演会550人</p> <p>○酒田っ子はぐくみ事業 実施回数10、延べ参加者数1,044人</p> <p>○地域の教育力向上事業 実施事業数146、実施日数446、延べ参加者数14,751人</p> <p>【予算現額7,500千円・支出済額7,062千円】</p> <p>○コミュニティ振興会連携事業（市街地）実施事業数3、実施日数3、参加者数259</p> <p>○地域人材交流講座（生涯学習推進講座）</p> <p>○「酒田っ子ミステリーバスツアー」7/31開催、参加者数33名</p>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成27年度 担当部署	学校教育課、社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○社会科副読本においては、随時、新しい情報や資料を掲載できるように編集を行った。 ○「私たちを励ます吉野弘のことば」山根基世朗読・講演会に吉野弘氏のご親族も出演し多くの来場者にふるさと教育の推進ができた。 ○「酒田っ子はぐくみ事業」に学校選択方式の職業講座を追加。 ○「酒田っ子ミステリーバスツアー」を実施し、ふるさとの良いところや企業を見学した。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○各学校では、地域の方との交流を継続的に行っている。地域の先生、読み聞かせ、地域を題材にした学習、発表など工夫を凝らして取り組んでいる。 ○「酒田っ子はぐくみ事業」ではキャリア教育やマナー教育など、職場体験の事前学習として活用され、職業を考えるきっかけや、マナーの習得につながっている。 ○将来の仕事について、一歩踏み込んで考える機会を提供することができた。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科、総合的な学習の時間などを通して地域への愛着や誇りを継続的に育てていく。 ○社会科副読本においては、随時、新しい情報や資料を掲載できるように編集を行っていく。 ○鳥海山・飛島ジオパーク構想に関連する学習活動の教材開発等を検討していく。 ○地域人材交流講座については、学校によって上限回数を超えて利用したいという希望もあることから、各学校の実情に応じた対応を検討。 ○コミュニティ振興会や学校に対して、積極的な事業展開が図られるよう定期的な訪問を通して相談体制をさらに強化する。 ○地域の先生が、高齢化に伴い減少することが懸念される。新たな人材確保を図るため、各コミュニティ振興会への働きかけを行っていく。 ○酒田っ子はぐくみ事業の実施校に偏りがあるためより多くの学校で事業実施していくよう努める。 	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(6) 相談支援体制の充実				
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課		
施策の目的及び目標					
○目的					
・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。					
○目標					
算出方法		H25	H26	H27	H31
不登校児童生徒の割合(全児童生徒に対する出現率)	小	16人0.29%	16人0.3%	15人0.29%	5人0.1%未満
	中	83人2.73%	52人1.76%	57人1.95%	40人1.3%未満
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○教育相談充実事業【予算現額8,645千円・支出済額8,076千円】					
・教育相談室での来室・電話相談の実施(平成27年度176件(新規64件)平成26年度207件(新規74件))不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。					
・教育相談研修講座を3回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。					
・適応指導教室では、不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行った。(小学生1名、中学生7名通級)					
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額9,840千円・支出済額8,474千円】					
・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)8名と教育相談員7名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。					
平成27年度における改善点・新たな取り組み					
○教育相談室から「相談室だより」を発行し、受身の相談だけでなく、相談室からも発信することで、不登校児童生徒の未然防止に役立てられた。					
○教育相談専門員が、各校に出向いて相談にのることができるようにした。					
○各中学校の教育相談員と子どもふれあいサポーターとSCの連絡会を年2回から3回に増やし、一人で悩むことが少なくなるようにした。					
事業の効果・課題					
○本市の教育相談の課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かすことができた。					
○適応指導教室(ふれあい教室)での体験活動を通じ、他の通級生や体験活動の講師の先生方と安心して関わることができるようになり、自信を取り戻せた例も多くある。不定期ではあるものの、7名の児童生徒が学校に登校できるようになった。□					
○発達障がい起因する不登校も増加していることから、特別支援教育への理解を深めていくことも重要となってくる。今後、研修内容を充実させる必要がある。□					
○毎月の長期欠席調査から、事態が重くなってからの教育相談ではなく、早期対応を心掛けていく。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
27年度評価	B	○不登校児童生徒数は小学校で横ばい、中学校で微増している。各学校の教育相談委員会等の組織を活かして相談活動を行い、スクールカウンセラーや相談員等との連携が進み、組織的に対応ができるようになった成果ととらえている。			
【参考】26年度評価	B	○事例をもとに迅速な対応ができるよう教職員の力量を高めていくと共に、Q-U等の活用も図りながら未然防止にも全力をあげていく。			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(7) 基礎的運動能力の向上		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標					
○目的 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、体力・運動能力を高めることができるようにする。 					
○目標 <ul style="list-style-type: none"> 小学校中学年の「走・跳・投の運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎体力向上に向けた取組みを支援する。 					
算出方法		H25	H26	H27	H31
小学校3年生の50m走の平均	男子	10.66秒	10.13秒	10.20秒	10.11秒
	女子	10.49秒	10.39秒	10.45秒	10.45秒
小学校5年生の50m走の平均	男子	9.63秒	9.44秒	9.45秒	9.26秒
	女子	9.94秒	9.70秒	9.54秒	9.55秒
中学校2年生の50m走の平均	男子	7.96秒	8.14秒	8.07秒	7.85秒
	女子	8.94秒	9.11秒	8.88秒	8.75秒
<ul style="list-style-type: none"> 希望する中学校（中学1・2年生対象）に、柔道の授業を専門的な立場から支援する指導協力を派遣し、授業の支援または教員の研修を行い、安全で充実したものにす。 					

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

○小中学校スポーツ振興事業 【予算現額1,049千円・支出済額899千円】 <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会開催を支援した。 （参加者：陸上競技記録会 518名、水泳競技記録会 463名） 陸上指導サポーター派遣 希望のあった小学校14校に講師を派遣し、3、4年の児童を対象に、年間3回「走・跳・投」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導に生かす。 中学校武道指導協力者派遣 希望のあった中学校に指導協力を派遣し、専門的な立場から支援することができた。 （派遣校数 3校、指導時数 25時間、派遣人数 3名）
--

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(7) 基礎的運動能力の向上		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○中学校武道指導協力者派遣は、平成24年度から3年間、全中学校へ武道指導協力者の派遣を行ったが、平成27年度より希望する中学校への派遣とした。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3・4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。</p> <p>○7月31日行われた陸上教室では、酒田市内の小学校高学年52名が山形大学地域教育文化学部、准教授、渡邊信晃氏より専門的な指導を受けることができ、子どもたちの意欲向上につながった。</p> <p>○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。</p> <p>○柔道の指導協力者を派遣したことにより、安全に配慮しながら授業を進めることができた。示範していただくことで、技をかける際のポイントや指導する際の具体的な練習方法を研修することができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○陸上指導サポーター、中学校武道指導者の派遣は、小中学校のニーズに応じて派遣を行い、教員の指導力向上に生かすことができた。</p> <p>○運動能力テストの結果、小学校5年生女子、中学校2年生男子・女子に伸びは見られたが、他学年、50m走以外の種目でも体力向上が図られるように取り組んでいく。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課

<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。 ・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取り組みを推進する。 				
算出方法	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	31年度 目標
全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べていますか」の回答による	小6 89.3%	小6 91.1%	小6 90.5%	小6 95%以上
	中3 86.7%	中3 84.8%	中3 85.5%	中3 95%以上

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

- 小学校保健管理事業【予算現額53,704千円・支出済額51,584千円】
- 中学校保健管理事業【予算現額20,821千円・支出済額20,000千円】
- 年間指導計画に基づいた保健学習の充実
 - ・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。
- 学校保健委員会の推進
 - ・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。
- 酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施
 - ・児童や生徒主体の取り組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり自校の取り組みを振り返らせたりすることができた。
 - ・発表内容をDVDにまとめて各小・中学校に送付した。他校の取り組みを知らせることで、自校の取り組みに生かせるようにした。
 - ・平成27年度発表校
 - 小学校 若浜小、亀ヶ崎小、琢成小、蕨岡小、藤崎小、吹浦小
 - 中学校 第四中、鳥海八幡中
 - 高校 酒田光陵高
- 学校医等による専門的な指導・助言のもと疾病の予防や健康相談を通して児童生徒の健康管理を行った。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。 (メディアコントロール、食育、虫歯・風邪予防、生活リズム)</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みやアウトメディアなどが多くの学校で行われるようになった。</p> <p>○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。</p> <p>○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に健康教育の推進を図っている。また、児童生徒保健研究発表会での発表内容や日頃の児童生徒の保健活動の様子を各学校へ広める活動を行っている。</p> <p>○がん、ドラッグ、アレルギー、感染症、生活リズム、睡眠など疾病や健康に関する今日的な課題に丁寧に指導し対応していく必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(9) 食育の推進				
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課		
施策の目的及び目標					
○目的					
・児童生徒に食事の重要性を理解させるとともに、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせ、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。					
○目標					
・地元産食材を積極的に学校給食に取り入れるために、小中学校給食での地元産食材の利用率の目標を小学校75%以上、中学校72%以上とする。					
	算出方法	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	31年度 目標
	重量ベースによる地元産食材の利用率	—	小 73.1% 中 71.5%	小 77.7% 中 71.6%	小 75%以上 中 72%以上
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○週5日、庄内産100%の米を利用した米飯学校給食を実施したが、平成27年度は年12回「つや姫給食」を実施した（パン給食等については、月1回実施）。					
○酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、毎月19日に「食育の日献立」を実施した。					
○栄養教諭等による巡回指導（80回）や食に関する講話（4回）、味覚教室（8回）を実施した。					
○「給食だより」「食育だより」を発行し、食材の情報提供を行うとともに食育の推進を図った。					
○酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を9月～11月に実施した。					
○酒田産乳使用の「ヨーグルト」給食を11月に実施した。					
○「総称山形牛」を使用した給食（すきやき煮）を11月に実施した。					
○市町合併10周年記念給食として、各地区の特産物（酒田地区：魚介類、八幡地区：ヨーグルト、松山地区：焼き麩、平田地区：赤葱）を使用した献立を11月に実施した。					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(9) 食育の推進		
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○米飯学校給食について、平成26年度は年3回「つや姫給食」を実施したが、平成27年度は年12回実施した。 ○地元産食材の利用拡大のため、酒田産米100%使用した「米粉パン」給食について、平成26年度は小学校19校で実施したが、平成27年度は全小中学校で実施した。 また、市町合併10周年記念給食として、各地区の特産物（酒田地区：魚介類、八幡地区：ヨーグルト、松山地区：焼き麩、平田地区：赤葱）を使用した献立を実施した。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○米飯給食、食育の日献立等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。 ○栄養教諭等が食と健康についての巡回指導を行い、児童生徒の食に対する興味、理解を深めることができた。 ○講話や「食育だより」の発行により、家庭に対して食の大切さを伝えることができた。 ○安全安心な給食の提供を最優先として、食材の安全性を確認するとともに衛生管理の徹底を図っていく。 ○農産加工品等も含め、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。 ○地産地消に係る県補助金が平成28年度で終了することから、今後の動向に留意する必要がある。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	○学校給食は、学びや運動の基礎となる健康づくりや給食ができるまでの社会の仕組みを教える等、生きた教材として活用されている。また、児童生徒への意識付けをし、家庭で実践をしてもらうため、栄養教諭等による子どもたちへの指導、保護者に対する食育指導にも取り組んでいる。これらの継続した取り組みが、将来自立した健康管理、食事管理ができる大人になることにつながるものと期待される。	
【参考】26年度評価	B	○地元産食材の利用については、26年度からは「米粉パン給食」「ヨーグルト給食」など地元産食材を利用した給食を実施している。今後も農産加工品等を含め、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(1) 青少年の健全育成		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが社会の変化を生き抜いていくための力を身につけるため、家庭・学校・地域がそれぞれの教育力を生かしながら相互の連携を深め、青少年の健全育成を図る。 青少年の健やかな成長を促すために「地域との関わり」を推進することで、将来の地域のリーダー育成、活気あるまちづくりにつなげ、地域の教育力向上を図る。 子どもたちの「他者を思いやる心」を育み、青少年の成長を促進する <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校(PTA)と地域が共同して行う学習機会の充実を図る。 青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への促進を図り、地域のリーダー育成につなげる。 		
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○地域人材交流講座(生涯学習推進講座開催事業)【予算現額700千円・支出済額668千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域の先生」との交流をとおり、小中学生に伝統行事や農作業、ものづくりの指導をしていただいた。 地域に根ざした方との異世代交流で郷土のありがたみや故郷を愛する心を育んだ。□ 実施回数と人数：小学校291回、4711人、中学校43回、1328人、合計334回、6039人 (前年度実績：小学校280回、4989人、中学校53回、1258人、合計333回、6247人) <p>○高校生ボランティア(かざみどり)が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校ボランティア部と協力しながら当日までの準備と運営をおこない、9日間で約5500の方が入場した。</p> <p>○成人式開催事業 立候補者及び地域からの推薦メンバーで実行委員会を組織。成人式の企画運営を行った。実行委員23人</p>		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(1) 青少年の健全育成		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員だけでは十分対応できない分野で指導していただき、充実した学習ができた。 ・日頃接することの少ない地域の方々との交流を図りながらの活動は、子どもたちにとって貴重な学びの場となった。 <p>○成人式で吉野弘の詩の朗読をとりいれ、成人式実行委員や東北公益文科大学の学生が朗読した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域人材交流講座では地域人材の活用が図られ、青少年の学びが広がった。さらに地域の指導者の方々は教える喜びや生きがいを見出している。</p> <p>○高校生ボランティア(かざみどり)が中央公民館主催事業「冬遊びお泊り会」に参加し、社会参画できたとともに、参加した小学生とのかかわりを通じ、異年齢間の交流が図られた。また、巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○地域人材交流講座については、各校とも地域人材との連携が良好に保たれ、学校との関わりを推進する良い事業となっている。</p> <p>○各支所地域の中高校生ボランティアとかざみどりが一体となって活動する機会を情報提供している。今後はもっと密接に他地区(他市町村含)のボランティアサークルと活動を行いたい。また、休止状態である八幡地区のボランティア団体について、中学校を訪問し加入促進を行った。</p>	
【参考】26年度評価	A	<p>○成人式実行委員や公益文科大学生が詩の朗読をしたことで達成感を味わうことができた。また、新成人に酒田市出身の詩人として吉野弘を周知する機会を提供できた。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもは、「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
みんなで遊ぼう「さんさん学級」(未就学児と保護者)	就園前の親子の触れ合いを推進するとともに、集団行動を学ぶ機会を提供した。また、収穫体験では地域の方々との交流も図ることができた。(親子リトミック、陶芸、収穫体験、パスルアート、クリスマス会)	6回	140
親子ですくすく出前講座(保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験を通して親子でのふれあい、遊びを通じた人間形成の基礎を培った(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、積木)。また、保護者向けに子育て講話を通して家庭教育の支援した。	17回	955
地域家庭教育講座(小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	19校実施 23回	1,184
赤ちゃん登校日(小6・中学生)	乳児と母親とのふれあいを通して、家族の愛情に育まれ成長してきたことの喜びを感じてもらうことで、自己肯定感と生命の大切さを実感してもらい、将来親になることについて学ぶ機会の提供を行った。	8校実施 20回	566
親育ちステップ講座パート2	子どもの健やかな成長を促すため、親の学びの場を提供した。	3回	37
もっと仲良くなるろう「パパと一緒に」	父親の育児参加を支援し、親としての成長を促す(フットサル、収穫体験等)。	5回	96
かんたん!かわいい!デコ弁つくっちゃお♪	デコ弁作りを通して、食の大切さを学ぶとともに、親子の絆を深めた。	1回	22
子どもを守るためのフィルタリング活用法	子どもをネット被害から守る方法をわかりやすく解説。PTA連合会と連携。	1回	150
家庭教育講演会	まちづくり推進課、子育て支援課、社会教育課の3課連携による家庭教育・子育て支援に関する講演会を開催。講師:佐々木則夫氏 演題:「夢と出会いを力に」	1回	381
ステキな子育て応援団☆イマドキの孫育て講座(新規)	昔と今の子育ての違いなど、グループワーク形式による講義と手づくりおもちゃ、読み聞かせ、お菓子づくりなどの実践を取り入れた。参加者同士の交流の場を提供することができた。	4回	14

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○祖父母を対象に、イマドキの子育て事情を知り、家族みんなで楽しく子育てができるような学びの場を提供した。また、参加者同士の交流の場となった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○保育園・幼稚園・学校での実施は、保護者がより参加しやすいため効果的である。今後も各部署との連携を図りながら実施する。</p> <p>○昨年度好評だったスマホに関する講座については、今年度PTA連合会研修大会と連携することで、より多くの保護者等に学びの場を提供することができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○親の学びの場に参加しない保護者も多く、そうした親に対してどのように支援していくのが課題である。</p> <p>○親の学習機会の提供については、他事業と連携を図りながら実施することでより効果的なものとする。</p>	
【参考】26年度評価	B	<p>○子育て世代を支援する祖父母の学びの場を継続して提供していくことで、家庭の教育力向上を図る。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(3) 地域教育力の向上		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々との交流する機会を設け地域の教育力向上に取り組む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し、地域教育力の向上を図る。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上事業【予算現額7,500千円・支出済額7,062千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を通し、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図った。 (実施団体：25団体、延べ事業数：146事業、延べ参加人数：14,751人) <p>○事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催事業例 干し柿づくり、通学合宿、サクラマス放流、敬老の日お手紙作り、虫おくり、ホタルと星空観察、少年歌舞伎、手蔵田神楽、少年ふれ太鼓 など 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○北平田コミュニティ振興会で子ども放課後広場を実施。自地域の施設に関心を持ち、大人との関わりを学んだ。放課後に小中学生が主体的に活動する場をコミュニティセンター内に準備した。ゲームばかりしていたが、子ども達が体を使って遊ぶようになった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域の人たちとのふれあい交流や体験（地域に伝わる伝統芸能・文化体験等）を継続して行うことで、社会のルールや地域理解を深め、伝統芸能等の後継者の育成も図られている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○自発的、積極的に地域の特色をだしながら教育力向上につながる事業を各コミ振で実施しており、企画運営のスキルアップがみられる。</p> <p>○地域の教育力向上事業委託料は、ひとづくり・まちづくり総合交付金に統合され、交付手続き等はまちづくり推進課が担当することになったが、地域の活性化、地域の教育力の向上は生涯学習推進計画の柱であり、これまでと同様にコミュニティ振興会の訪問を行い、青少年と地域との交流推進を支援していく。</p>	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○中学生職場体験学習推進事業【予算現額900千円・支出済額845千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験は該当学年のいる7中学校において、2日間実施が2校、3日間実施が5校、延べ24業種であった。 <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師として、産業技術短期大学庄内校、鶴岡工業高等専門学校、酒田光陵高等学校の教授、准教授、教諭及び産業技術大学や酒田光陵高等学校の学生ボランティアの協力を得て事業を実施した。 ・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験した。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サイエンス発明教室」で、従来のコースに、新たに情報科を加え5コースを設定した。酒田光陵高校の先生方11名が講師となり、酒田光陵高校のボランティア生徒46名の協力を得て実施したが、どのコースも講師の先生方の工夫や新しい試みにより、子ども達が主体的にものづくりに取り組むことができた。 			
事業の効果・課題			
<p>○中学生職場体験学習推進事業は、市内中学校で2日間以上の職場体験学習を実施した。体験実施の事前事後の学習活動も行っており、職業観の涵養とともに、実際に働くことの意義や職場の方々との交流も図ることができた。</p> <p>○ものづくり事業においては、年間8回の「ものづくり塾」の他、「サイエンス発明教室」においては、酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○中学生職場体験学習推進事業と中村ものづくり事業は、自らの適性や生き方を学ぶ大切な機会であり、精神的な成長にもつながっている。</p> <p>○職業人を招いた講話や職場体験など、今後も働くことの意義を考える場や仕事に触れる機会をさらに充実していく必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(5) 青少年指導活動の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かでたくましい青少年の育成と非行の未然防止に努める。 ・小・中・高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員の延べ618名が行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止と問題行動の未然防止等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 ・ネット巡視活動を行った。 <p>○子どもの健全育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課主催の「酒田市こども祭り」実施に協力した。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○街頭巡回指導の日程を、学校の実情に合わせた形に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの4月当初に計画を立てて年間通して計画どおりに行う形から、長期休暇や振り替え休日等、児童生徒が外に出歩く機会が多いときに実施するようにした。 <p>○街頭巡回指導における指導委員からの報告内容に「声かけした人数」の欄を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは「注意・指導」した人数のみ報告してもらっていたが、声かけした人数の欄を設けたことで、指導委員が声をかける意識を今までよりも高く持つようになった。 			
事業の効果・課題			
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員236名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。注意・指導を要する児童生徒の数は減少している。 (注意・指導した少年の延べ人数H27年度：260名、H26年度：356名)</p> <p>○青少年育成推進員の方々が、地域の見守り隊と一緒に児童生徒の見守り活動を行った。</p> <p>○相談件数は年々減少の傾向にある。内容は問題行動に関するものが減り、引きこもりや家庭内の問題など、自立に関わる問題が増えている。(相談延べ件数 H27年度13件、H26年度15件)</p> <p>○ネット上のトラブルやいじめは全国的にもますます複雑化しているため、個人が特定される可能性のある情報や誹謗中傷などが無いかについて、ネットの巡視活動(サイトや掲示板の定期的なチェック)を継続する。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
27年度評価	B	<p>○補導活動の強化や「声かけ」を増やしたことで、コンビニでの万引きは減少している。巡回回数や人数を増やすなど「目に見える街頭指導」が抑止力につながっている。</p> <p>○粗暴な非行が減っている中で、小学生による万引きが増加傾向にある。また、不審者による実害は少なくなったが、声かけや付きまといといった事案は発生している。今後も警察や学校をはじめとする関係機関と連携しながら、街頭指導活動を充実させていく。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	5 教育環境の整備				
施策	(1) 学校施設の整備				
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課		
施策の目的及び目標					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設は子どもたちの学びの場、地域住民の生涯学習、生涯スポーツの場であるとともに、災害時の身近な避難所であり、引き続き、耐震化を進めるとともに、非構造部材の耐震対策や地震対策以外の災害に対する安全対策に取り組む。 老朽化している学校施設や設備等について、安全で良好な教育環境の整備や長寿命化を図るための改修や更新等に取り組む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に耐震化を図り、学校の安全な教育環境整備を目指す。 					
算出方法		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	31年度 (目標)
耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小学校	92.5%	93.6%	93.6%	100.0%
	中学校	93.9%	100.0%	100.0%	100.0%

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>〔耐震関係事業〕</p> <p>○地見興屋小学校屋内運動場天井改修事業【予算現額25,744千円・支出済額25,661千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 非構造部材の耐震化を図るため、屋内運動場の吊り天井を撤去し、天井改修を行った。 <p>○耐震診断事業【予算現額6,670千円・支出済額6,579千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田沢小学校の校舎(鉄筋コンクリート造約792㎡)、屋内運動場(鉄骨造約400㎡)の耐震診断を実施した。 <p>○松山小学校改修事業【予算現額87,328千円・支出済額5,954千円・翌年度繰越額80,108千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山地域の3小学校統合校となる松山小学校の地盤調査を行った。 あわせて統合校の設計を2ヶ年継続で行っている。 <p>〔その他の改修事業〕</p> <p>○亀ヶ崎小学校改修事業【前年度繰越額35,392千円・支出済額35,262千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に引き続き、グラウンド改修工事を行った。 <p>○鳥海八幡中学校改修事業【予算現額131,649千円・支出済額127,118千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武道必修化により武道場の整備を行った。 構造：鉄骨造平屋建て 面積約345㎡ <p>○学校下水道切替事業【予算現額11,200千円・支出済額11,200千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜中小学校の下水道への切替工事を行った。 <p>○平田小学校駐車場整備事業【予算現額523千円・支出済額522千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールバス駐車場を整備するため、27年度は土地の測量と用地交渉を行った。 <p>○学校グラウンド改修事業(小学校)【予算現額1,329千円・支出済額1,126千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田沢小学校、南遊佐小学校グラウンドの補修整備を行った。 <p>○学校グラウンド改修事業(中学校)【予算現額1,181千円・支出済額637千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一中学校のグラウンドの補修整備を行った。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(1) 学校施設の整備		
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○施設整備事業（小学校）【予算現額24,797千円・支出済額24,796千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> プール塗装（亀ヶ崎小学校） プール修繕（宮野浦小学校） プールろ過装置交換（松原小学校、黒森小学校、宮野浦小学校） 放送設備更新（八幡小学校） FFストーブ改修（宮野浦小学校、平田小学校） ガラスブロック改修修繕（十坂小学校） 屋上フェンス設置工事（宮野浦小学校） <p>○施設整備事業（中学校）【予算現額18,692千円・支出済額18,676千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防球ネット設置修繕（第六中学校） 電話設備改修（第三中学校） FFストーブ改修（第四中学校、鳥海八幡中学校） 屋上フェンス設置工事（第四中学校） 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設の耐震化として、非構造部材の耐震化（屋内運動場のつり天井の改修）を行った。 ○適正規模に課題のある学校も安全確保を優先して耐震診断を行った。 ○津波対策として、学校の屋上フェンスを設置した。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○耐震診断に基づき、改修・改築の計画を策定しながら、工事の進捗を図り、学校施設の耐震化を推進することができた。 ○老朽化した施設・設備等を改修し、安全で良好な教育環境の整備を図ることができた。 ○教育環境整備を進めるうえで、国の予算が厳しい状況にある。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の安全確保と災害時の地域の避難所としての機能確保のため、今後も学校耐震化、災害に対する安全対策を推進する必要がある。 ○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修、更新を年次的に進め、施設・設備の長寿命化を図り、安全で良好な教育環境の整備に取り組んでいく必要がある。 	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	5 教育環境の整備				
施策	(2) 学校規模の適正化の推進				
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課		
施策の目的及び目標					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針に基づいて適正化を進める。</p>					
<table border="1"> <tr> <td>基本方針</td> </tr> <tr> <td> 1. 学校規模に関する基本的な考え (1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。 (2) 複式学級の解消に努める。 (3) 過大規模校(31学級以上)は設置しない。 2. 当面存続する規模 当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。 (1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模 (2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模 3. 配慮事項 学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。 </td> </tr> </table>				基本方針	1. 学校規模に関する基本的な考え (1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。 (2) 複式学級の解消に努める。 (3) 過大規模校(31学級以上)は設置しない。 2. 当面存続する規模 当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。 (1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模 (2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模 3. 配慮事項 学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。
基本方針					
1. 学校規模に関する基本的な考え (1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。 (2) 複式学級の解消に努める。 (3) 過大規模校(31学級以上)は設置しない。 2. 当面存続する規模 当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。 (1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模 (2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模 3. 配慮事項 学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。					
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○学区改編推進事業【予算現額614千円・支出済額409千円】 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。(2回) ・「学校規模に関する基本方針」に基づき、統合を進めている学校 <ul style="list-style-type: none"> ①鳥海小学校、南遊佐小学校 ②地見興屋小学校、松山小学校、内郷小学校 ・鳥海小学校・南遊佐小学校統合準備委員会を設立し、地域への説明会も含めて統合に向けた諸課題を協議した。(統合準備委員会：1回、地域説明会等：7回) ・地見興屋小学校・松山小学校・内郷小学校統合準備委員会を設立し、地域への説明会も含めて統合に向けた諸課題を協議した。(統合準備委員会：2回、説明会等：4回) ・「教育委員会からのお知らせ」(鳥海・南遊佐地区：1回)や「学区改編だより」(鳥海・南遊佐地区：1回 松山地区：4回)を発行し、地域や保護者の方々に統合の計画や進捗状況等についての周知を図った。 					
平成27年度における改善点・新たな取り組み					
<ul style="list-style-type: none"> ・統合方法が違う松山地域3小学校の新設統合及び鳥海小学校への南遊佐小学校の統合を地域と保護者の理解のもとに進めるため、より丁寧な説明に心がけた。 					
事業の効果・課題					
○鳥海小学校・南遊佐小学校及び松山地域3小学校の統合に関する地域説明会を開催し、地域や保護者の方々と丁寧な意見交換を行ったことにより、統合に関する理解が深まり、統合準備委員会が設立され、平成29年4月の統合に向けた取り組みが進んでいる。 ○適正規模等に課題のある学区における説明会は、重点的に取り組んでいる松山3小学校並びに鳥海・南遊佐小学校の説明や調整に注力する必要があったため、統合が具体化していない一部の地区において開催できなかった。 ○地域の理解と合意を得るためには、時間をかけ丁寧な説明が必要である。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
27年度評価	B	○地域や保護者の方々の統合に関する理解が深まったことにより、最重要課題であった2つの地域の小学校の統合が合意され、学校規模の適正化に向けた取り組みを進めていく環境が整ってきた。			
【参考】26年度評価	B	○適正規模等に課題のある学区においては、今後も、地域や保護者への説明を継続的かつ丁寧に行い、地域の理解を更に深める必要がある。			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(3) 通学の安全確保		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額2,099千円・支出済額2,018千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯装備車両による防犯パトロールについては、警察より証明を受けた巡回協力者と学校教職員により、市教委による回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与のもとで実施した。 <p>○遠距離通学対策事業【予算現額58,996千円・支出済額56,146千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、借上等バス対応は約60日、定期券対応は約3か月分の経費の負担を行った。 <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 ・運行学区 松原小、鳥海小、平田小、八幡小、南平田小、田沢小 一中、二中、四中、鳥海八幡中、東部中 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が把握する通学路の危険箇所については、個別での対応・各機関合同での対応を行い、改善すべき箇所について、児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○メール配信システムについて、これまでは不審者に関する情報中心であったが、今年度より交通安全上の注意喚起についても配信していくこととなった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○遠距離通学対策事業、スクールバス運行とも市の基準に照らしながら対応し、児童生徒の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○見守り隊や地域学校安全指導員との情報交換と協力連携を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく必要がある。</p> <p>○年度当初にメール配信システムの登録を呼びかけているが、登録の仕方を分かりやすくするための広報活動を引き続き実施していく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○見守り隊や地域学校安全指導員との協力連携を通して、児童生徒の安全な登下校の見守りを行うことができた。</p> <p>○学校統合による通学路の変更は、児童の安全に十分配慮しながら進めていく。</p>	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																
基本施策	5 教育環境の整備																
施策	(4) 学習バスの運行																
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署		学校教育課													
施策の目的及び目標																	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で保有する学習バスを積極的に活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの校外での学習活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各学校等で行われる学習活動への積極的な支援を図るとともに、児童・生徒への安全に配慮した運行を行う。 																	
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況																	
<p>○学習バス・スクールバス管理事業【予算現額101,763千円・支出済額97,577千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市保有の2台の学習バス及び、スクールバス（登下校時間帯を除く）により、市内小中学校の校外学習等を実施している。 <p>○学習バスとして年間延べ1,500回運行した。</p> <p style="text-align: center;">《運行回数推移》 単位：回</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>年度</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>678</td> <td>883</td> <td>963</td> <td>1136</td> <td>1500</td> </tr> </table> <p>○主な運行内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習、体験学習、交流学习、自然教室、各種大会、職場体験学習、地域探訪 他 						年度	H23	H24	H25	H26	H27	回数	678	883	963	1136	1500
年度	H23	H24	H25	H26	H27												
回数	678	883	963	1136	1500												
平成27年度における改善点・新たな取り組み																	
○規程に沿った運行内容となるように精査した。																	
事業の効果・課題																	
<p>○校外での直接の見聞による体験的活動をとおり、学習への関心・意欲等の高揚が図られた。</p> <p>○市が保有する学習バスの活用により、学習エリアの広域化が図られた。</p> <p>○学習バスを利用する際の、児童・生徒へのバス乗車マナーや交通安全意識の啓発も必要である。</p>																	
点検結果・自己評価（今後の方向性）																	
27年度評価	A	<p>○学習バスを活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの学習活動で効果的に活用することができた。</p> <p>○学習バスの利用が校外学習のねらいにそった活用であるかどうかを見極めながら対応していく。</p>															
【参考】26年度評価	A																

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(5) 学校 I C T環境の整備充実		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に対応した I C T環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等の充実と適正な運用を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用コンピュータは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成の為、定期的に更新しながら賃貸借契約による整備を継続していく。 ・校務用コンピュータは、平成22年度に一括導入した経緯も踏まえ、実施計画により新しい機種を随時、更新していく。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○デジタルキャンパスネットワーク【予算現額55,274千円・支出済額53,319千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校696台、中学校295台の教育用コンピュータを賃貸借契約により整備しており、年度ごと更新している。 ・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。 ・校務用グループウェアの研修会を実施した。 ・市教研視聴覚部会は、デジタル機器、コンピュータを効果的に活用する具体的方法を学ぶ授業研究会を実施している。 ・情報教育担当者会、市教研視聴覚部会において、情報モラル教育及び I C Tを活用した授業について研修会を実施した。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○パソコンの操作や授業において I C T機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。</p> <p>○校務用グループウェアの使い方の研修会を通して、教育情報のデータベースを職員間で共有できるようになり、校務の効率化につながっている。</p> <p>○授業においてデジタルテレビを活用したり、 I C T機器を活用した授業を工夫することにより、児童生徒の学習意欲を高め、理解を深めることができてきた。</p> <p>○平成27年度末、授業で I C T機器を活用できる教員の割合は、小学校90%、中学校78%であり、小・中学校とも日常的に I C T機器を活用した授業が行われるようになった。</p> <p>○平成29年度から2か年計画で、校務用コンピュータの更新を進める際、各校に1台、タブレットとして提示用にも活用できる端末を整備を検討する。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○平成27年度末、授業で I C T機器を活用できる教員の割合は、小学校90%、中学校78%であり、小・中学校とも日常的に I C T機器を活用した授業が行われるようになった。</p> <p>○教科の特質に応じた I C T機器活用方法について、更に研修を深めていく必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等		
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関での修学が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子ども達の教育を受ける機会の確保に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動等に関わらず広く市民に周知され、支援制度が必要な市民が利用できるようにする。 			

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算現額3,948千円・支出済額3,948千円】

私立高等学校生徒授業料軽減事業は、私立高等学校に在学している生徒の授業料等に係る保者等の経済的な負担軽減を図るため、毎年6月1日において私立高等学校に在学している生徒を有し、かつ、本市に住所を有する保護者等で、その世帯が次のいずれかに該当するものに対し私立高等学校生徒授業料軽減補助金を交付するものである。

- (1) 生活保護法の規定による被保護世帯 【補助金額：60千円】
- (2) 当該年度の市民税が非課税の世帯 【補助金額：36千円】
- (3) 当該年度の市民税のうち、均等割額だけを課税される世帯（年少扶養控除及び特定扶養控除廃止前の基準で算定し均等割のみ課税となる場合を含む） 【補助金額：36千円】

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生活保護世帯	4件	2件	1件
市民税非課税世帯	68件	68件	68件
均等割額のみ課税世帯	40件	43件	40件
交付件数 計	112件	113件	109件
交付額	4,128,000円	4,116,000円	3,948,000円

【周知実績】 県内各私立高等学校に配布（市内3校、市外13校）

○京野基金大学修学奨励事業【予算現額911千円・支出済額910千円】

京野基金大学修学奨励事業は、本市出身の優秀な学生の大学修学に係る経済的支援を図る目的で、平成22年度に新設した制度であり、次のいずれにも該当する学生のうちから別に選考されたものの保護者に京野教育振興基金大学修学奨励金を学生1人につき300千円交付するものである。

- (1) 学生の保護者等及び世帯の年収額を生活保護法による保護基準表の例によって算出した当該家庭の需要額で除した率が120パーセントに満たない者
- (2) 高等学校を卒業した年度の翌年度に、国立大学法人立大学又は公立大学若しくは市長が特に認めた大学に入学した者（医学部及び歯学部は除く）
- (3) 高等学校在学中の成績が優秀であると認められる者
- (4) 学生の保護者が本市に住所を有し、引き続き1年以上居住し、かつ、当該世帯に本市市税等の滞納がない者

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
交付件数	6件	4件	3件
大学修学奨励金交付額	1,800,000円	1,200,000円	900,000円

【周知実績】 市内高等学校7校に配布

京野教育振興基金の推移

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
年度当初残高	7,608,735円	5,810,637円	4,621,408円
取崩額	1,800,000円	1,200,000円	900,000円
積立額	1,902円	10,771円	10,242円
年度末残高	5,810,637円	4,621,408円	3,731,650円

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等		
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課

○大学等修学支援事業【予算現額2,512千円・支出済額2,510千円】

大学等修学支援事業は、大学等（大学、短期大学、専修学校（専門課程を置き修学年限が2年以上のものに限る。）及び市長が認めた教育施設）修学に係る経済的支援を図るため、毎年6月1日において大学等に在籍している本市出身の学生を有する保護者等で、次に該当するものに対し大学等修学資金利子補給金を交付するものである。

・学生の家族（兄弟姉妹は除く。）の所得等の合計額が、次の金額以下であるとき

種別	所得等の合計額	
給与のみの場合	収入額	770万円
上記以外	所得額	573万円

なお、利子補給金の額は、金融機関の修学貸付に係る利子相当額とし、学生1人につき、1年当たりの利子相当額4万円を上限とする。

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新規交付件数	27件	19件	33件
継続交付年数	44件	43件	36件
交付件数 計	71件	62件	69件
交付額	2,621,869円	2,318,653円	2,509,908円

【周知実績】市内高等学校・大学、金融機関など23機関に配布

平成27年度における改善点・新たな取り組み

事業の効果・課題

- 各事業ともに学校や関係機関に対して、制度をわかりやすくまとめたパンフレット、チラシ等を配布するとともに、市のホームページや広報、ハーバーラジオなどを活用し、本支援制度を必要とする市民に広く制度の周知を図った。
- 本支援制度を必要とする市民が、より簡便な手続きで支給が受けられるよう提出物の提出時期や事業ごとのスケジュールの見直しが課題である。

点検結果・自己評価（今後の方向性）

27年度 今後の 方向性	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○周知については、学校や関係機関を通じてある程度実施出来ており、制度自体は一定の役割を果たしている。 ○家庭の経済状況によらず、次代を担う子どもの教育を受ける機会を確保することは必要であり、今後も幅広く周知しながら続ける必要がある。 ○本支援制度を必要とする市民に対し、可能な限り速やかに支援を行うことができるよう、申請の受理から支給までの事務を遅滞なく行うことが必要である。
【参考】 26年度 今後の 方向性	継続	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ			
基本施策	5 教育環境の整備			
施策	(7) 私立学校等の振興			
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課	
施策の目的及び目標				
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。 				
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況				
<p>○私学振興補助事業【予算現額3,150千円・支出済額3,150千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付 				
	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
	天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
	和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円
	交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円
平成27年度における改善点・新たな取り組み				
<p>事業の効果・課題</p> <p>本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付している。平成27年度においては、16～18歳人口の減少に連動する形で私立高等学校の生徒数も減少している。市内の高校生人数に占める私立高校生徒数の割合は2割を超えており、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っていると言える。</p>				
	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	公立高等学校生徒数…A	2,438人 (100.0)	2,433人 (99.8)	2,398人 (98.4)
	私立高等学校生徒数…B	710人 (100.0)	756人 (106.5)	704人 (99.2)
	市内高等学校生徒数…C=A+B	3,148人 (100.0)	3,189人 (101.3)	3,102人 (98.5)
	私立高等学校生徒数率…B/C	22.6% (100.0)	23.7% (105.1)	22.7% (100.6)
	市内16～18歳人口	2,966人 (100.0)	2,974人 (100.3)	2,857人 (96.3)
	私立高校教員数	74人 (100.0)	77人 (104.1)	76人 (102.7)
<p>※カッコ内は平成25年度の各数値を100として比較したもの</p> <p>※生徒数及び教員数は各年度5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より）</p> <p>※16～18歳人口は各年度3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）</p>				
点検結果・自己評価（今後の方向性）				
今後の方向性	継続	<p>○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、教育の機会均等及び本市の子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっている。本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての補助金は必要なものとする。</p> <p>○本市においても、今後とも少子化が進んでいく状況にあるが、本市の子どもたちの教育を受ける機会の均等化において欠かせない役割を担う私立高等学校の健全な運営のために、県の補助制度を踏まえながら引き続き支援を行っていく。</p>		
【参考】26年度今後の方向性	継続			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを進め、自主的・自律的な学校運営が推進されるように支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、「4」以上の学校数を85%にする。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○明るく楽しい元気な学校づくり支援事業【予算現額4,850千円・支出済額4,708千円】</p> <p>1校あたり15万円を上限とする交付金（15万円28校、13万円5校）をもとに、各学校でテーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。</p> <p>○取り組んだ主な教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携、地域学習等の活動 23校 児童生徒の感性を育てる活動 18校 学校美化、地域環境保全活動 16校 児童会、生徒会活動への支援 12校 学級経営、学習活動の推進 16校 <p>※取組みの例…・地域指導者によるクラブ活動・交流活動等の活動（富士見小、松原小、浜中小等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の祭りへの参加（浜田小、第四中等）、 外部講師を招いての特別授業・講演会（琢成小、宮野浦小、鳥海八幡中等）、 動植物を育てる活動（鳥海小、地見興屋小、南平田小等） P T Aと共に学級菜園・学校環境整備（西荒瀬小、琢成小等） 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
○各学校で、前年度事業評価において達成度の低かった項目について原因を究明し検討のうえ事業に取り組んだ結果、改善が図られている。			
事業の効果・課題			
<p>○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校内外の評価の結果を5段階で評価した。平均「4」以上の学校は、33校中31校で93.94%となった。（平成26年度93.94%、平成25年度88.57%）</p> <p>○取り組む内容をテーマ化することで、児童生徒が、より豊かな学校生活を送ることができた。</p> <p>○地域連携、地域学習活動の推進を事業に据えた学校は、23校であるが、総じて、地域の方から多大な協力や支援をいただいている。学校と地域の緊密な連携が伺うことができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○平成25年より名称を変更し、各学校の実態に応じた事業の実施により、一層自主的・自律的な学校経営が推進され、一定の成果が得られた。</p> <p>○配当予算に依らず、学校裁量・学校独自の視点から、新たな課題に取り組むことのできる事業である。また、学校毎に計画時に評価観点を設定し、年度の振り返りの際、達成度の低い評価については、改善点なども検証しており、今後も継続し取り組んでいく必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価の推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校で教育活動等の成果と検証を行う学校評価に取り組み、学校運営の改善と発展を目指す。 ・良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。どの学校も学校評議員会を開催し、学校の運営や教育活動について、具体的に意見をいただいている。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、その結果を学校評議員に提示し学校関係者評価を行い、学校運営の改善につなげている。 ・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルに基づいて実施する工夫がみられる。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校評議員の人選については数年連続しているとなかなかメンバーを代えにくいという反省がある中、年齢構成、役職、男女比のバランスを考慮しようとする学校が見られるようになった。</p> <p>○多くの学校評議員から出席いただけるように学校評議員会の開催時刻を工夫したり、話題内容によっては、全員参加ではなく個々に招集し開催する等の取り組みが見られるようになった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○学校評議員会の開催により、学校の経営方針や教育活動のねらい・内容を説明し理解を得ることで、地域との協力体制づくりが進んでいる。</p> <p>○話し合いの目的によって学校評議員の人選が変わることが考えられるため、年齢構成、役職、男女比などを考慮し、学校評議員を選出する必要がある。</p> <p>○学校評議員会の時間設定を工夫することで、多くの方からの意見を集約することができた。また、事案により、招集メンバーを絞ることでテーマに沿った話し合いができています。</p> <p>○地域の方々に学校経営方針や授業・行事等の実践を公開することで、学校・家庭・地域の方々による学校運営や具体的な教育活動への理解が深まり、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の実施により、地域の思いや願いが、学校経営に反映し児童生徒の学校生活の充実につながっている。</p> <p>○学校評価の結果を学校便り等で地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの地域での様子やさまざまな情報を学校にいただけるようになってきた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○学校評議員の人選にあたっては、地域の有識者や教育活動の支援者並びに保護者等から広く意見を集約し、経営の改善に生かせるよう配慮されてきた。</p> <p>○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくように学校に働きかけていく。</p> <p>○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(3) 教職員研修等の充実		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させ、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。 ・教員評価を行い、学校教育に対する信頼の確保と資質の向上を図る。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修は学級づくり、市内教育施設の訪問等の研修を実施した。(該当者16名) □ ・全体研修では「服務研修」「いじめ対応」、知見を広める体験研修では企業や福祉施設等で体験的研修を実施した。(経験者研修該当者4名、服務研修参加者9名) □ <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書専門員研修会(28名参加) ・教科指導力向上のための研修会 理科センター事業として研修会を4回開催。(延べ47名) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計67回開催 ・児童生徒理解のための研修会 教育相談研修講座を3回開催(延べ472名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を3回開催 ・特別支援教育のための研修会 特別支援教育研修会を2回開催(延べ193名参加) <p>○教職員評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り資質の向上に努めた。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○初任者研修では、教育公務員としての教師の服務や心構え、児童生徒との関わり方、特に特別支援教育の考え方について研修を深めることができた。また、初任者として職務上の悩みを情報交換できたことは対象者にとって非常に貴重な機会となった。□</p> <p>○経験者研修会では、喫緊の課題であるいじめの防止、早期発見、適切な対応について研修を行うことで、児童生徒の見取りについて意識を高めることができた。</p> <p>○図書専門員研修会では経験豊富な専門員の方からの助言も有効だが、基本的な操作に関する利用講習を数年に1回程度、企画・予算化する必要がある。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、算数・数学において授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることにつながっている。□</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
27年度評価	A	<p>○初任者研修では「ユニバーサルデザイン」、経験者研においては「いじめ防止について研修し、教員としての資質の向上につなげることができた。</p> <p>○読書指導や図書館活用型授業の大切さを理解してもらい、それを支える専門員の在り方にも触れることができた。</p> <p>○教育相談研修講座において、特別支援、いじめ予防、学級づくりをテーマに研修会を開催することにより、今日的な課題について研修できた。</p>	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成27年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に関する正しい知識をもち、体罰否定の指導観のもと信頼される学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰の根絶対策と、一人一人の人格や自主性を尊重し、児童生徒理解に基づく適切な学習指導、生徒指導、部活動指導等を実施する。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○校内倫理委員会における体罰根絶への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される学校推進のための具体的取り組み」の項目の中に体罰根絶の項目を位置づけ、各校の実態に即した取り組みを計画的に実施。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○「体罰等の根絶と児童生徒理解に基づく指導のガイドライン」をもとに、学校評価の際に教職員及び保護者アンケートに体罰や不適切な指導に関する項目を設け、児童理解に基づく指導に取り組んでいる。</p> <p>○アンガーマネジメントについて研修し、教職員が怒りに対する自己コントロールができるようにすることで児童生徒一人一人を尊重し、よさを伸ばす指導に努めている。</p> <p>○生徒指導等で児童生徒に対応する場合は、単独ではなく複数で対応するようになっている。</p> <p>○個別に支援を必要とする児童生徒の指導について全教職員で共通理解して行う。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○教職員が児童生徒のことで一人で悩むことのないように、問題行動等への解決にはチームで対処する。</p> <p>○部活動コーチへ指導のあり方については引続きお願いと指導を行う。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ								
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進								
施策	(5) 学校施設の地域開放の推進								
担当部署	企画管理課	平成27年度 担当部署	管理課						
施策の目的及び目標									
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を学校運営や安全管理に支障のない限りにおいて地域に開放し、学校が地域住民の生涯学習及び生涯スポーツ活動の一拠点として役割を担っていくことで、学校と地域の連携を深めていく。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全ての小中学校において、学校と地域との相互連携のもとに学校開放を実施する。 目標数値：実施率100% 									
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況									
○学校開放実施率									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度					
小学校	学校数	27校	26校	26校					
	実施校数	27校	26校	26校					
	実施率	100%	100%	100%					
中学校	学校数	9校	8校	8校					
	実施校数	9校	8校	8校					
	実施率	100%	100%	100%					
○平成27年度一校当たりの週平均稼働日数 単位：日/週									
	小学校	市街地	旧公民館地区	総合支所管内	中学校	市街地	旧公民館地区	総合支所管内	全体
体育館	4.7	6.1	4.6	3.1	4.0	5.2	2.3	3.2	4.5
グラウンド	2.8	4.2	2.6	1.3	1.0	0.5	0.8	2.0	2.3
※グラウンドについては冬季を除く期間（4月～11月）において週平均を算出									
平成27年度における改善点・新たな取り組み									
事業の効果・課題									
<p>○1校当たりの週平均稼働日数をみると、体育館が4.5日/週、グラウンドが2.3日/週となっている。</p> <p>○中学校においてグラウンドの稼働日数の数値が低いのは、部活動に使用されていることによって一般の使用が難しくなっているものと分析され、この点を考慮すれば、学校施設は高い頻度で生涯学習や生涯スポーツ等の地域活動に利用されていると言え、学校開放が学校と地域を結び付ける役割を果たしているものと考えられる。</p>									
点検結果・自己評価（今後の方向性）									
今後の方向性	継続	<p>○学校開放の実施率は平成27年度においても100%の実施率であり、過去の実施率からも、学校開放の制度が地域に浸透しているものと考えられる。</p> <p>○学校施設の利用については、学校が地域の利用団体と連絡を密に取りながら調整して実施している点及び利用頻度が高い点から考慮すると、学校開放が学校と地域の関わりの機会となっている。</p>							
【参考】26年度今後の方向性	継続	<p>○今後も、学校が地域の生涯学習及び生涯スポーツの一拠点として機能し、また、学校と地域が繋がる機会とするため継続して実施する。</p>							

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内関係課との情報の共有や情報発信の一元化を図りながら、連携事業にも取り組み市全体としてより充実した事業推進に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会の進展に伴い、学習情報の収集と提供を行うシステムや学習相談の体制整備に努める。 ・学習しやすい施設や環境づくりの整備。 ・関係各団体と互いに連携を図りながら生涯学習を推進。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○市広報やホームページ、フェイスブックでの講座募集。</p> <p>○生涯学習推進計画関連事業一覧のホームページ掲載 関連課21</p> <p>○生涯学習指導者登録制度 登録者52名（H27新規登録者6名）※ホームページに掲載</p> <p>○カモンくんこどもニュースの発行（月1回、全小学生へ配布）</p> <p>○総合文化センター耐震改修事業【予算現額242,436千円・支出済額242,355千円】 総合文化センター耐震改修工事、内外壁タイル、体育室天井、トップライト等の改修を実施。 また、後年度に実施する空調設備改修工事の実施設計を委託。</p>			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○山形県金融広報委員や日本証券業組合など社会貢献活動で講座を実施している事業を活用し、ライフプランに関する講座「夢プランカレンダーで未来計画」と株式のしくみについて小学生が学ぶ「チャレンジお菓子の株式会社」を実施した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習指導者登録では6名の指導者登録があり、市民企画講座として4講座開催した。うち1講座が自主サークルとして立ち上がり定期的に活動を継続。</p> <p>○生涯学習推進講座開催事業では、各ライフステージに合わせた、学びを提供し、多様なニーズに対応した。終了後のアンケート調査では高い満足度を得ることができ、年間集計では満足度90%を達成。</p> <p>○耐震改修工事により、生涯学習施設である総合文化センターの安全性を確保することができる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○市広報、ホームページ、フェイスブック、各種チラシなどいろいろな媒体を通じて学習情報の提供に心がけている。</p> <p>○生涯学習サークルの募集を一覧にして随時更新をしている。</p> <p>○総合文化センターの耐震改修工事は施設の安全性を確保する事業であるので、計画終了年度（平成28年度）までに当初計画事業費内で工事を終了する。</p>	
【参考】26年度評価	—	<p>○生涯学習関連事業の一覧を活用し、他課等と連携を深めていくことが課題。</p>	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう												
基本施策	7 生涯学習の充実												
施策	(2) 生涯学習社会の基礎づくり												
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課										
施策の目的及び目標													
○目的													
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに合わせた学びの提供 ・「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供 ・学んだ成果を地域に生かせる学習機会の提供 ・地域・家庭・学校・幼稚園・保育所等と連携した事業の推進 ・家庭教育支援の充実 													
○目標													
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の満足度を参考に随時見直しを行い、学習意欲の高まりを促進。 													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>産出方法</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)</td> <td>90%</td> <td>84%</td> <td>90%</td> <td>87% 以上</td> </tr> </tbody> </table>				産出方法	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)	生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)	90%	84%	90%	87% 以上
産出方法	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)									
生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)	90%	84%	90%	87% 以上									

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況									
○生涯学習推進講座開催事業 【予算額5,194千円・支出済額4,947千円】									
○中高生ボランティア支援事業 【予算額174千円・支出済額80千円】									
講座区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数
幼児講座	4	22	1,210	4	32	1,512	4	19	1,447
少年講座	8	365	8,948	8	490	8,930	6	408	8,510
青年講座	5	35	415	6	25	326	8	26	292
成人講座	15	73	1,199	11	48	693	14	51	827
家庭教育講座	12	83	4,397	11	69	3,275	10	82	3,553
指導者養成講座	6	13	248	6	11	272	6	9	428
催し	7	24	23,424	7	25	19,979	12	19	19,356
計	57	615	39,841	53	700	34,987	60	446	34,413

平成27年度における改善点・新たな取り組み									
○夏休み宿題お手伝い教室、酒田っ子ミステリーバスツアー、小説講座、フットサル講座、アスリートのサポートレシピ講座、孫育て講座等を新規で実施。									

事業の効果・課題									
○各ライフステージに合わせた、学びを提供し、多様なニーズに対応した。終了後のアンケート調査では高い満足度を得ることができ、年間集計では満足度90%を達成。									
○中高生ボランティア事業では、継続した取組みが中高生ボランティアの育成につながり主体的に行動できるようになるなど成長を確認することができた。高校1～2年生が少なく新たな参加者を開拓することが課題。									

点検結果・自己評価（今後の方向性）									
27年度 評価	A	○生涯学習推進講座開催事業では参加者のアンケート調査を参考にして満足度が高い講座を多く実施できた。 ○学習効果を高めるため、生涯各期のニーズを考え、各種講座を実施した。							
【参考】 26年度 評価	B								

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(3) 生涯学習機会の提供		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人の要望」や現代的課題の解決に向けた「社会の要請」に応える、様々な学習機会の提供。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会変化に対応していくため、各関係部署、その他関係機関等との連携を深め、多様な学習機会の提供に努める。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○東北公益文科大学と連携した市民大学講座を従来の講義中心の形式からワークショップ形式を取り入れ、参加者同士のディスカッションにより、地域課題等について考える機会を提供。</p> <p>○春の市民茶会、生涯学習まつり等生涯学習活動の成果発表の機会を提供。</p> <p>○自主サークル活動の育成（H27新規立上げ自主サークル数1）</p> <p>○生涯学習施設「里仁館」の運営支援（教育機関との連携した学習機会の提供）</p> <p>○生涯学習指導者登録制度 登録者52名（H27新規登録者6名）※ホームページに掲載</p>			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
○市民企画の「カラムシで編み物」講座を自主サークルとして育成した。			
事業の効果・課題			
<p>○市民大学講座では受講者数が年々減少傾向にあり、実施方法など見直しが課題。</p> <p>○生涯学習まつりでは62団体が参加し、生涯学習の成果を発表。3日間で延11,783名の来場者があった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○市民大学については、親しみやすいテーマや講座名にする。もしくは、座学以外の方法も取り入れるなど一般の受講者が受け入れやすいものにしていく。</p> <p>○春の市民茶会、生涯学習まつりは成果発表の場として多くの参加者があった。</p> <p>○生涯学習ボランティア育成の目的で指導者として活躍できる体制を整えるため市民企画講座を実施し、新規で6名の指導者を登録した。</p>	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(4) 地域活動の活性化		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動で身に付けた知識や技術を、自らの生活や地域活動に生かし、持続可能な知の循環型社会を構築していくこと。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びをとおした交流の広がり、活気あるまちづくり・地域づくりを目指す。 ・地域活動の活性化を図るため、各コミュニティセンターへ社会教育指導員や職員が積極的に出向き、事業参加を行いながら相談しやすい体制を構築。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上事業 実施事業数146、実施日数446、述べ参加者数14,751</p> <p>○コミュニティ振興会連携事業（市街地）実施事業数3、実施日数3、参加者数259</p> <p>○地域人材交流講座（生涯学習推進講座）</p> <p>○各地域担当社会教育指導員の配置 訪問実績472</p> <p>○地域の教育力向上スキルアップ講座 参加者数36名</p> <p>○少年団体リーダー研修会 参加者数87名</p>			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域人材交流講座については、各校とも地域人材との連携が良好に保たれ、学校との関わりを推進する良い事業となっている。</p> <p>○市街地コミ振と連携を深めるため連携事業について訪問を継続し拡充していく。</p> <p>○コミュニティ振興会連携事業で打合せから実施まで連携し事業を実施できた。講師のコーディネートの役割でコミ振事業に貢献することができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域人材交流講座については、各校とも地域人材との連携が良好に保たれ、学校との関わりを推進する良い事業となっている。</p> <p>○市街地コミ振と連携を深めるため連携事業について訪問を継続し拡充していく。</p> <p>○コミュニティ振興会連携事業で打合せから実施まで連携し事業を実施できた。講師のコーディネートの役割でコミ振事業に貢献することができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○地域の特性を活かした青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を地域の教育力向上事業や地域人材交流事業で行われている。</p> <p>○「地域の先生」として活動が活発化するための指導者研修に、より多くの地域の方から参加してもらう工夫が必要。</p>	
【参考】26年度評価	B	<p>○地域の教育力向上事業委託料は、ひとづくり・まちづくり総合交付金に統合され、交付手続き等はまちづくり推進課が担当することになったが、地域の活性化、地域の教育力の向上は生涯学習推進計画の柱であり、これまでと同様にコミュニティ振興会の訪問を行い、青少年と地域との交流推進を支援していく。</p>	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(1) 図書館機能の充実				
担当部署	図書館	平成27年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。					
○目標					
	算出方法	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)
	人口1人当たりの館外貸出冊数	4.9冊	4.9冊	4.9冊	5.2冊
	人口1人当たりの入館回数	3.54回	3.59回	3.44回	3.85回
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○図書購入事業【予算額22,709千円・支出済額22,618千円】					
・一般図書等8,799冊、児童図書等2,738冊、雑誌・新聞等1,694冊を購入して提供した。					
	※参考数値	25年度	26年度	27年度	
	館外貸出冊数	535,245冊	530,560冊	519,019冊	
	館外貸出人数	145,955人	145,364人	141,195人	
○東北公益文科大図書館との連携					
・東北公益文科大図書館を經由し341冊の貸出が行われた。					
○広報活動					
・市広報、図書館ホームページ、ハーバーラジオ及び外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。					
○利用者拡大の取り組み					
・通常のカテゴリ方法にこだわらない、ビジネスマンの役に立つと思われる本を集めた「ビジネス図書コーナー」を設置した。					
・図書館閉館後の館内で、ビジネスパーソンの読書術・図書館利用術講座を2回開催し、延べ35人の参加があった。					
○民間活力の利用					
・民間事業者が購入費用を負担した雑誌を広告媒体として活用してもらう。					
・雑誌スポンサー制度を導入し、1社より3誌の提供を受けている。					

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	8 図書館活動の充実		
施策	(1) 図書館機能の充実		
担当部署	図書館	平成27年度 担当部署	図書館
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○常設の企画展示コーナーを設置し、テーマに応じたおすすめ本を紹介した。</p> <p>○ビジネス図書コーナーの設置、ビジネスパーソンの読書術・図書館利用術講座を開催した。</p> <p>○雑誌スポンサー制度を導入し、広報や商工会等にチラシを配布した。</p> <p>○他館等から寄せられる読書や生涯学習等に関するチラシ・ポスターなどを掲示し、社会教育に関する啓発に努めた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○図書管理システムにより、ホームページ上での貸出延長手続きや図書予約が可能となり、また、受取り館を指定することで、市立図書館のどこの館でも他の館の本を取り寄せることができ、利便性の向上が図られている。</p> <p>○東北公益文科大との連携による「受取・返却サービス」の活用により学生や地域住民に利用されている。</p> <p>○他の公立図書館との連携により、未所蔵資料へのリクエストに対応した。</p> <p>○市広報や展示コーナーで新刊案内を図るとともに、常設の企画展示やビジネス図書コーナーを設置し、図書利用促進に努めた。</p> <p>○雑誌スポンサー制度について広報や商工会へのチラシ配布等を行ったが、提供者は1社に留まっている。事業への賛同が得られるよう提供者にとっての広告媒体として効果の有り様等を含めた検討が必要。</p> <p>○16歳～30歳未満の貸出者数、貸出冊数が全体の7%弱と少ないため、若年層の利用が図られるような工夫を検討する必要がある。</p> <p>○中央図書館が狭いため、蔵書スペースの確保が課題である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○図書の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。 ・DVD等は図書館にふさわしいソフトを検討し所蔵数を増やしていく。 ・地域に密着した郷土資料の資料収集等に努めつつ、限られた配架スペースを有効活用できるよう検討していく。 <p>○図書館利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新刊紹介や特設コーナーの企画展示を工夫する。 ・広報活動により、所蔵資料や人気本を紹介し、利用促進を図る。 ・酒田コミュニケーションポート(仮称)整備事業におけるライブラリーセンターとしての役割を、市民の意見を取り入れながら検討していく。 	
【参考】26年度評価	A		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう																		
基本施策	8 図書館活動の充実																		
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用																		
担当部署	図書館	平成27年度 担当部署	図書館																
施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 光丘文庫は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保全と公開を行う。 本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理、及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。 																			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況																			
<p>○所蔵資料の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家が訪れている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数(人)</td> <td>5,101</td> <td>4,564</td> <td>3,775</td> </tr> <tr> <td>利用者数(人)</td> <td>542</td> <td>427</td> <td>358</td> </tr> <tr> <td>レファレンス(件)</td> <td>92</td> <td>72</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示(17ケース) <ul style="list-style-type: none"> ①「大和、出羽、神代に見る世界観」 5月19日～9月19日 ②「江戸期庄内・酒田の医学について」10月6日～2月28日 ギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> ①「くらしの中の『神道』～ある神主のひとりごと」7月25日(43名) ②「江戸末期から維新前後の医療について」12月5日(40名) 					25年度	26年度	27年度	入館者数(人)	5,101	4,564	3,775	利用者数(人)	542	427	358	レファレンス(件)	92	72	100
	25年度	26年度	27年度																
入館者数(人)	5,101	4,564	3,775																
利用者数(人)	542	427	358																
レファレンス(件)	92	72	100																
平成27年度における改善点・新たな取り組み																			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○全国各地からの来館される研究者の方々にも必要な資料を提供できた。□</p> <p>○常設の企画展示により、市民への資料紹介ができた。</p> <p>○ギャラリートークを継続し、多数の参加があった。□</p> <p>○光丘文庫収蔵資料の一部については画像化したものを図書館ホームページ上で公開しているが、使い勝手の面で難がある等のため、利便性を図って行くことが課題。</p> <p>○長年の懸案事項であった貴重な資料の保全を図るため、平成28年度予算において中町庁舎への移転を実施することとした。</p>																			
点検結果・自己評価（今後の方向性）																			
27年度評価	B	<p>○積極的なPR</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門性が高い資料であることもあって、一般市民の関心や利用が高いとはいえない状況にある。市民にとってより親しみやすい広報を図っていく必要がある。 <p>○利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館ホームページにおいて、資料の一部を画像化して公開してはいるものの、作成から相当の年月が経過し、他の類似施設の公開資料に比較して著しく使い勝手の面で劣るほか、資料の検索機能もないため、利便性向上を図る必要がある。 <p>○光丘文庫の建物については、保全・活用方法の検討をする必要がある。</p>																	
【参考】26年度評価	A																		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）				
担当部署	図書館	平成27年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的 ・子どもがいつでも気軽に読書に親しむ機会を提供できるように読書環境づくりを推進する。					
○目標					
	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度 (目標)
	15歳までの人口	13,917人	13,453人	13,100人	13,016人
	子ども(15歳以下)一人当たりの年間貸出冊数	11.6冊	11.9冊	12.0冊	12.2冊
※28年度の人口は、H28.5.31現在の数値					
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況					
○子ども読書活動推進事業【予算額1,341千円・支出済額1,320千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。 「お話会」を24回実施し、延べ477人の親子が参加した。 「赤ちゃんの読み聞かせ教室」を12回実施し、延べ197人の親子が参加した。また、お父さんを対象に休日にも1回実施した。 「読み聞かせボランティア講座」を6回実施し、延べ71人が参加した。 「おやこ絵本づくり講座」を2回実施し、23組の親子(子ども32人、保護者23人)が参加した。福島県矢祭町もったいない図書館主催手づくり絵本コンクールにおいて、この講座に参加した親子8組の作品を応募し、うち2組の作品が家族の部で最優秀賞・入賞を受賞した。 絵本作家の講演会を実施し、一般や子ども等111人が参加した。過去5年間での参加人数は一番多かった。 					
	※参考数値	25年度	26年度	27年度	
	児童図書の間貸出冊数	162,314冊	160,741冊	157,767冊	
	学校団体貸出の間貸出冊数	1,530冊	2,168冊	1,542冊	
平成27年度における改善点・新たな取り組み					
<ul style="list-style-type: none"> ○小学2年生・5年生・中学2年生へ読書に関するアンケート調査を行い、第1次計画の成果と課題を検証し、第2次計画の策定への参考とした。 ○平成28年度から始まる第2次子ども読書活動推進計画の策定を行った。計画策定にあたっては、図書館協議会委員のほか社会教育委員からも意見を聞き施策を検討した。 ○学校等の団体貸出制度について資料を配付し、未登録の団体には登録を推奨し、公立・法人保育園は、すべて団体登録を行った(小・中学校は登録済)。また、おすすめ本リストや団体貸出のみ利用できるパネルシアターのリスト等を配付し、図書の利用促進に努めた。 					
事業の効果・課題					
<ul style="list-style-type: none"> ○「お話会」は、幼児期からの本に親しむきっかけともなり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用増加が期待される。 ○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタートをきっかけとして、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。 ○ブックスタート事業により、乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合が高まっている。 ○「読み聞かせボランティア講座」は基礎編とステップアップ編の2部構成とし、小学校や各施設等での読み聞かせに活用され、ボランティアの育成に繋がった。 ○「おやこ手作り絵本講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。また、完成する喜びや達成感、自信にも繋がった。コンクールでは2点の受賞があった。 					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
27年度 評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者も多く、長期的な視点で継続・充実させる。 ○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。 ○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用や公立・法人保育園園長会議や図書館専門員研修会等で園・学校等の団体貸出について説明し貸出冊数等の増加を図る。 ○読書習慣を身に付けるために、幼少期から継続して本に親しむことができるよう、第2次子ども読書活動推進計画の施策の実施を園・学校及び関係各課等との連携・協力を図りながら家庭、保護者等も含めた取り組みを行う。 			
【参考】 26年度 評価	A				

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）		
担当部署	スポーツ振興課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが夢あふれる未来に向かって、健康で心身ともにたくましく成長していくため、学校や地域等において、子どもがスポーツを楽しむことができるように環境の整備をすすめ、合わせて体力の向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団活動や総合型地域スポーツクラブなどの地域の資源を利用し、地域が連携してスポーツ環境の充実を図ることにより、子どもたちがスポーツに接する機会を増やし、積極的に運動、外遊び等に親しむようにする。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ少年団育成事業補助金 【予算現額1,742千円・支出済額1,742千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定育成員講習を実施し40名が受講。また、運動適性テストを実施し766名が受けた。 <p>○スポーツ少年団大会開催事業 【予算現額1,630千円・支出済額1,630千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団本部大会（サッカー、野球、バレーボール、ミニバスケットボール、卓球、剣道の6種目）を開催し、1,301名の参加があった。スポーツ少年団本部指導者講習会・技術指導講習会（6種目）を実施し、490名の参加があった。 <p>○総合型地域スポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の総合型地域スポーツクラブは8団体あり、それぞれ地域にあった形で特色ある活動をしている。部活動を中心とした団体から、子どもから高齢者までを対象とし事業を展開しているクラブもあり、それぞれ子どもの体力向上につなげている。 <p>○B&G平田海洋クラブ（海洋センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度もヨット・カヌー教室を実施し、クラブ員の指導により10名（内小学生5名）の参加があった。また、クラブ員（一定の技量が身につく）になることでクラブ主催の最上川カヌーツーリングや日本海カヌーツーリングに参加できる。□ 海洋センターでは小学生を対象に水泳教室や着衣泳体験教室を実施し、水の事故から子どもを守ることもつながっている。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○少子化に伴う児童数減少による団員数減少、加入率の低下もあるが、現況としては1,700名（84団）の子どもたちがスポーツ少年団に加入している。運動を「する」、「しない」の二極化が進む中で、運動に接する機会をつくるために、総合型地域スポーツクラブへの加入などにより、スポーツに親しむ機会が増えている。□</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○運動能力を測定するために、団員を対象に運動適性テストを実施しているが、参加者の増加を図るとともに酒田市スポーツ少年団としてのデータを分析し、それを活用して体力向上の動機づけを進めていく必要がある。</p> <p>○今後も継続して、日常的にスポーツに親しむ機会をつくっていくために、施設だけでなく指導者養成に向けて、研修をしていく。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(2) 生涯スポーツの推進		
担当部署	スポーツ振興課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に貢献するため、市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり1スポーツで元気なまちづくりをスローガンに、多くの市民がスポーツに親しむ環境をつくっていくため、スポーツ推進のための指導者等の連携強化と養成を図っていく。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地区体育振興会事業補助金【予算現額2,340千円・支出済額2,340千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26地区×90,000円を補助した。 <p>○スポーツ推進委員会研修活動事業【予算現額5,624千円・支出済額5,174千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員81名（H27.4月現在） ・全国推進委員研究協議会、東北地区推進委員研修会、山形県推進委員研究大会等へ参加。 <p>○総合型地域スポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8団体が登録されており、施設使用料の減免を受けている。 <p>○スポーツ行事開催事業【予算現額14,528千円・支出済額14,528千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11の行事を開催し、13,338名の参加者があった。 <p>○スポーツによる地域活性化推進事業【予算現額5,219千円・支出済額3,590千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展により自立可能な体力を維持するため、運動に無関心な層を含む多くの市民を対象としたスポーツ・レクリエーションに接してもらい、合せて健康増進・地域活性化を図り、健康社会の構築を目指すもの。ノルディック・ウォーキングを種目として、アンケート調査、教室、大会の実施により事業を行った。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
○スポーツによる地域活性化事業として、ノルディック・ウォーキングを実施した。			
事業の効果・課題			
<p>○市内26地区には住民主体で発足した地区体育振興会があり、年間を通して活発に活動している。これからも地域の生涯スポーツの中心的な役割を担っていくと考えている。□</p> <p>○総合型地域スポーツクラブは8団体あり、それぞれ特色ある活動を実施している。クラブの活動はスポーツ活動を中心としたものであるが、これからはまちづくりを含め、広く地域づくり活動をすることも求められており、より地域との密接な連携が必要となる。□</p> <p>○平成27年度のスポーツ行事においては、目標値13,400人としていたが13,338人の参加があった。また、地域活性化推進事業で取り組んだノルディック・ウォーキングには延2,619人の参加があった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	○地区体育振興会の活動は、生涯スポーツ健康スポーツの振興、推進に大きな役割を果たしている。また、スポーツ行事の開催においても中心的な役割を担っている。□	
【参考】26年度評価	—	○今後は地区体育振興会による活動及び総合型スポーツクラブの活動等に、より市民がスポーツに親しむことができるように組織・運営のあり方を考える必要がある。	

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(3) 競技スポーツの振興		
担当部署	スポーツ振興課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上のため、各スポーツ団体等と連携し、体育協会加盟団体を中心とした指導者のレベルアップを図る。また、組織的、計画的にトップレベルの選手を育成することで、その選手の活躍が市民のスポーツへの関心を高めるようにする。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元選手が全国や世界の舞台で活躍できるよう、体育協会や競技団体と連携を密にし、トップアスリートの活動を支える環境づくりに努める。またそのための優秀な指導者の育成支援をおこなう。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市体育協会事業補助金 【予算現額10,906千円・支出済額10,906千円】</p> <p>○各種大会出場選手賞賜事業 【予算現額4,905千円・支出済額4,686千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生1,315人、中学生82人、高校生・一般85人の計 1,482人に賞賜金を交付した。 <p>○白崎資金スポーツ振興事業 【予算現額1,459千円・支出済額1,306千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツ指導者研修（9回 675人）、中央指導者養成研修派遣（7回 8人）、スポーツ優秀選手表彰（195人）を実施し、選手育成の一助となった。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○平成27年度は世界ジュニア相撲選手権大会中量級優勝、世界ろう者水泳選手権大会出場、世界ユース陸上競技選手権大会出場などの成果を上げている。今後も選手の育成には、多くの指導者が加盟している市体育協会が中心となり、技術だけに限らない講習等を通じて、選手を育成していく必要がある。</p> <p>○2020年東京オリンピック・パラリンピックへの選手出場について、体育協会をはじめ各競技団体の指導体制の強化等が課題となっている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○上位大会へ出場した選手には賞賜金を交付しその成果を称えた。また、体育協会を中心に指導者の研修を開催し、レベルアップを図った。上位大会出場への意識の高揚を図るため、平成28年度からは賞賜金を激励金として交付する。これまでも世界大会等へ出場する選手が育成され一定の成果をあげているが、今後も選手の育成を進める必要がある。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(4) スポーツ施設の整備充実		
担当部署	スポーツ振興課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震診断の結果に応じた補強工事、老朽化対策等を講じ、安全で快適な施設の環境整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化・老朽化対策を含め、安全で快適なスポーツ環境・施設整備を進める。高齢化の進展により、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化に配慮した整備を進めていく。 			
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○体育施設整備事業【予算現額78,413千円・支出済額76,798千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国体記念体育館 冷温水発生機分解整備工事 18,304,920円 八森自然公園 簡易水洗トイレ設置工事 7,062,120円 光ヶ丘プール 関連ポンプ交換工事 3,132,000円 平田B&G体育館 電源系統変更修繕 1,121,360円 国体記念体育館 体操競技用床2面 34,904,520円 陸上競技場 スリットビデオシステム1式 3,780,000円 国体記念体育館 空手道競技用フロアマット3面 3,149,280円 国体記念体育館 システムカウンター1式 1,369,440円 <p>体育施設の工事、修繕及び備品の整備を実施した。</p> <p>○国体記念体育館アリーナ照明LED化整備事業【予算現額84,100千円・支出済額78,948千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国体記念館大アリーナ照明（120灯）及び小アリーナ照明（48灯）のLED化の改修工事を実施した。 			
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○LED化によりアリーナの環境が向上し利用者からの評価もされている。</p> <p>○施設全般に老朽化が進んでおり、長寿命化並びに耐震性も含めた改善を効率よく進めるため、アセットマネジメントにより計画的改修等をしていく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○全国規模の大会が誘致できるように体操用マット購入など設備の充実を行なった。</p> <p>○施設の大多数は今後も改修、更新等により安全で安定した機能を確保する必要がある。今後も緊急の故障等の発生があった場合には、適正迅速な対応を行っていく。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす			
基本施策	10 芸術文化活動の推進			
施策	(1) 芸術文化の振興			
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課	
施策の目的及び目標				
○目的				
・市民の芸術文化活動をより活発なものとするため、関係機関との連携を図りながら、次世代を担う人材の育成と裾野拡大に努める。				
○目標				
・幅広い年代の市民が参加する「市民芸術祭」は、身近な文化活動に触れる場としても有効である。これらの事業をとおり、芸術文化振興に寄与された人材の顕彰に努めながら、活動の活性化と裾野拡大に努める。				
	算出方法	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	入場者数実績	25,434人	28,514人	平成31年度 (目標) 27,000人
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況				
○市民芸術祭参加事業 【予算現額3,191千円・支出済額3,191千円】				
		参加事業数	入場者数	
	平成25年度	35団体	25,434人	
	平成26年度	38団体	28,514人	
	平成27年度	38団体	26,974人	
○市民会館利用状況				
・申請書受付数 762件、入場者数 105,455人				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業 【予算現額524千円・支出済額229千円】				
・庄内文化賞 市川 清治 (古典芸能/邦楽)				
・阿部次郎文化賞 該当者なし				
・庄内文化賞については、複数の推薦があったが、阿部次郎文化賞については推薦自体がなく、授賞に至らなかった。				
平成27年度における改善点・新たな取り組み				
○酒田市民芸術祭				
・酒田市合併10周年記念事業としての取り組みにより、芸術文化活動が活発化され、開幕公演は、多くの市民参加のもと、質の高い内容となった。				
○特記事項				
・酒田市合併10周年記念事業として、酒田市出身の指揮者 工藤俊幸氏をお迎えし市民合唱団と酒田フィルハーモニー管弦楽団による開幕公演を行った。				
事業の効果・課題				
○酒田市民芸術祭				
・従来の其々の文化活動を維持・促進するとともに、次世代にいかにより継承し、人材を育成していくかが今後の重要な課題である。				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業				
・阿部次郎文化賞については、候補者の推薦が無く授賞に至らないという状況であることから、在り方について今後検討する必要がある。				
点検結果・自己評価 (今後の方向性)				
27年度 評価	B	○市民芸術祭では、開幕公演をはじめ、市民参加による質の高い事業を展開し、大変好評であった。□		
【参考】 26年度 評価	—	○酒田市の文化活動拠点施設である市民会館は、酒田市内外の文化団体をはじめ学校等からの利用も多く、アマチュアの発表の場としても有効に活用されている。□		
		○文化振興においては、少子高齢化、価値観の多様化を背景に、市民参加型事業を実施するなど、次世代の育成に重点をおいた裾野の拡大に取り組んでいく必要がある。		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロのアーティストによる質の高い鑑賞機会の提供は、豊かな感性を育み、文化活動や創造活動の動機づけとなる可能性が高いため、より一層質の高い鑑賞機会の提供に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルのアーティストによる質の高い多彩な鑑賞機会を提供するとともに、芸術文化に対する関心を高める。 			

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

○酒田希望音楽祭

- ・日本を代表する指揮者 広上淳一氏とピアニストの河村尚子氏を招聘し、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催した。□
- ・吹奏楽部等に所属する中高生やピアノを学ぶ小学生などの入場もあり、酒田市内外から来場があった。その他、市民の発表による、街かどコンサートを開催した。□
- ・新日本フィルハーモニー交響楽団コンサート入館者数 887人

○希望ホール自主事業

- ・プロのコンテンポラリーダンサー田畑真希氏の振り付けにより、酒田港まつりS-Jinkuに参加。S-JINKU参加後はプロのダンサーと一緒に市民参加型ダンス作品を創作し、公演を行った。

○鑑賞型事業としては、ニッセイ財団による学校鑑賞事業、マリンバコンサート、ジャズコンサート、ピアノリサイタルなど多彩な質の高い公演を行った。

- ・入場者数 8,596人 □□
- ・山形交響楽団庄内定期演奏会酒田公演 入場者数 566人

○土門拳記念館

- ・土門拳の作品展示について、公益財団法人土門拳記念館と連携し、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。□
- ・入館者数

年度	入館者数 (人)
平成25年度	30,539
平成26年度	29,574
平成27年度	31,874

○酒田市美術館

- ・専門性を活かした質の高い企画展の開催や、幅広い年代の人に足を運んでいただけるような教育普及活動を積極的に行うなど、公益財団法人酒田市美術館と連携しながら質の高い鑑賞機会の提供に努めた。□
- ・入館者数

年度	入館者数 (人)
平成25年度	56,493
平成26年度	47,710
平成27年度	69,627

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○質の高い鑑賞機会の提供以外に、市民参加型ワークショップやアウトリーチを実施、美術館やホール等になかなか足を運ぶ機会の少ない市民に対しても鑑賞機会を提供するなど、積極的な取り組みを行った。□</p> <p>○土門拳記念館□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジサイライトアップに伴い、他課と連携し、ミュージアムコンサートの開催や生け花の展示、呈茶を行うなど、市民を対象にした事業を実施した。□ ・昭和の時代を撮影した土門拳の写真は、歴史的資料としての価値も高いことから、小中学校での授業活用について、学校に対しPRを行った。□ <p>○酒田市美術館□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しく鑑賞できるような企画展も取り入れるなど、幅広い年代の入館を意識した取り組みを行った。 			
事業の効果・課題			
<p>○少子高齢化、価値観の多様化などを背景に、質の高い鑑賞機会だけでは新顧客の獲得が困難になってきている。参加型事業の実施や、芸術文化の魅力を伝えるような取り組みを行うなど、蓄積型文化を意識した取り組みが今後ますます重要になってくる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	A	<p>○酒田希望音楽祭では、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催し、市民並びに市内小学校6年生に対して、質の高い鑑賞機会の提供を行うことが出来た。□</p> <p>○希望ホール自主事業□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある日生劇場（東京都）制作による子ども向けクラシックコンサートを学校鑑賞事業として実施したほか、酒田市出身のプロのアーティストによる音楽と美術のコラボレーション型事業を実施するなど、多彩な質の高い鑑賞機会の提供を行った。□ <p>○土門拳記念館・酒田市美術館では、幅広い年代の市民に気軽に足を運んでいただけるような取り組みを積極的に行うなど、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育や生涯学習と連携・協力し、多様な社会に対応出来るような人材育成を行うとともに、芸術文化活動の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観の多様化、グローバル化の社会の流れを意識しながら、学校教育や生涯学習と連携・協力しながら、より分かりやすい丁寧な文化体験型事業の展開を目指す。 			

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○酒田希望音楽祭 【予算現額4,753千円・支出済額4,753千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校6年生を対象に、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートリハーサル鑑賞体験事業を実施。コンサートの鑑賞のみならず、クラシック音楽やホールでの鑑賞マナーを学ぶ機会として位置付け、毎年継続的に実施。(平成27年度 21校 818名) □ ・新日本フィルメンバーによるアウトリーチ事業を実施。(実施校：酒田特別支援学校) ・世界の名器スタインウェイピアノの演奏体験事業を実施。(平成27年度参加者数：37名) <p>○希望ホール自主事業 【予算現額11,006千円・支出済額10,983千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロのダンサーによる市内小学校でのアウトリーチの実施、打楽器経験者を対象にしたマリンワークショップなど、人材育成を目的にした各種事業を実施した。 		
	アウトリーチを実施した事業	アウトリーチ実施校
平成27年度	①ARTE PORTO ～音楽とアートが織りなす空間～ 酒田市出身 村上佳奈子氏(美術作家)・村上咲依子氏(チェリスト) ②ダンス事業 コンテンポラリーダンサー・振付家 田畑 真希氏	①小学校1校 ②小学校2校
<p>○酒田市美術館・土門拳記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校活動の見学時に、学芸員が説明を行うなど、学ぶ機会としても有効に活用された。 <p>○「能・狂言」ワークショップ(対象：松山地区小学校 3校)</p>		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	文化スポーツ振興課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等へのアウトリーチの充実を図るとともに、酒田市出身のアーティスト村上佳奈子氏（美術作家）と村上咲依子氏（チェリスト）による美術と音楽のコラボレーション型事業を実施。酒田市出身のアーティストを市民に広く紹介するなど、支援を行った。また、酒田港まつりS-JINKUに、プロのコンテンポラリーダンサーであり振付家の田畑真希氏を招聘し、オリジナルの振り付けのもと、市民（6歳～75歳までの約30名が参加）がプロのダンサーと一緒に参加するなど、アーティストの持つ高い芸術性や音楽性などに直接触れられるような機会の提供にも努めた。□ ・青少年の育成を目的に、学生を対象にチケット料金を無料にする取り組みも行った。 			
事業の効果・課題			
<p>○価値観の多様化、グローバル化が進む中で、文化の位置付けが高まってきている。□</p> <p>○本市の文化拠点である希望ホールを有効活用し、プロによる質の高い鑑賞機会や文化体験事業の機会を提供することは、人材育成の視点から極めて重要なことだと認識している。文化は豊かな感性を育むばかりではなく、個性を認め合える表現は生きる力を育むものだとされている。</p> <p>○世代を超えた交流や人と人とを繋ぐ役割も果たせるものであり街づくりとしての有効性も言われている。これらの文化事業を計画的に継続的に行っていくことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○プロのアーティストが持つ芸術性の高い世界観に触れることは、青少年にとって、文化活動への動機づけとなる可能性が高いことから、希望ホール自主事業を中心に、アウトリーチやワークショップ等を継続的に実施している。</p> <p>○プロのアーティストの演奏を間近で観たり、聴いたり、楽器に触ったり出来るワークショップのような直接的な取り組みは、情操教育のみならず、自己表現の可能性を拓げるものであり、多様化に対応出来る人材育成にも有効であると考えている。</p> <p>○今後は、計画的にアウトリーチ実施校を増やすなど、より多くの青少年に対し、機会の提供が出来るように努めていきたい。</p>	
【参考】26年度評価	—		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(1) 文化財等の保存と活用		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存、活用を図る。 ・市内に存在する資料について調査し、貴重なものについては指定を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展の充実や観光事業との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。 ・文化財施設を良好な状態に保つために適切な維持管理を行う。 		

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況																				
<p>○文化財保護総務管理事業 【予算現額9,053千円・支出済額8,098千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試掘調査2箇所（亀ヶ崎1丁目地内）、（亀ヶ崎3丁目地内） ・城輪柵跡南門築地塀の修繕、奉行所跡地の維持管理 ・史跡整備協議会での要望・研修活動 <p>○文化財施設管理運営事業 【予算現額43,514千円・支出済額42,913千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家、松山文化伝承館の管理運営事業 <p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額13,109千円・支出済額13,109千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財浄福寺唐門の修復工事への助成 ・市民俗芸能保存会、国指定史跡名勝の庭園管理等へ支援 <p>○さかた歴史街道事業 【予算現額1,534千円・支出済額1,514千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと歴史講座の開催3回 <ul style="list-style-type: none"> 10/24「国府のおもかげを探して」講師 文化財保護推進員 小野忍氏 11/ 3「文化の日特別企画－鶴舞園、清遠閣、本間美術館新館－」講師 本間美術館館長 田中章夫氏 11/15「北前船で栄えた頃」秋田大学教授 渡辺英夫氏 																				
参考																				
文化財施設入館者数（単位：人）																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旧鑑屋</td> <td>17,180</td> <td>15,874</td> <td>12,693</td> <td>25年度から指定管理委託</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>2,243</td> <td>1,997</td> <td>2,041</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,782</td> <td>2,648</td> <td>2,752</td> <td>イベント開催</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	25年度	26年度	27年度	備考	旧鑑屋	17,180	15,874	12,693	25年度から指定管理委託	旧白崎医院	2,243	1,997	2,041		旧阿部家	2,782	2,648	2,752	イベント開催
施設名	25年度	26年度	27年度	備考																
旧鑑屋	17,180	15,874	12,693	25年度から指定管理委託																
旧白崎医院	2,243	1,997	2,041																	
旧阿部家	2,782	2,648	2,752	イベント開催																

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(1) 文化財等の保存と活用		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化が著しい南遊佐収蔵庫（旧南遊佐公民館）を解体して、収蔵品は旧鳥海小学校へ移転した。 ○夏休み期間中に旧鑑屋を会場にして親子を対象としたクイズ形式のイベントを開催した。 ○風雨による痛みの激しい旧鑑屋の本格的な修理を行うために事前調査を実施した。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○貴重な文化財や歴史資料の散逸を防ぐとともに、適正に管理保存し、機会を設けて展示等を実施することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。 ○入館者数が減少傾向にある。特に旧鑑屋については近隣の本間家旧本邸と連携して引き続き、集客に努める必要がある。 ○旧鑑屋、屋根部分の損傷が大きく、今後早急な補修対応が必要である。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して収集と保存に努める必要がある。 ○旧鑑屋の痛みが激しいため、調査を行ったところ、本格的な修理が必要と結果が出ている。引き続き、耐震診断も含めた全体の状況把握に努める。 ○史跡、遺跡、文化財施設を実際に見学する行事を開催し、アンケートでも好評だったことから、酒田の歴史文化への理解を深める意味でも積極的に活用を図る。 	
【参考】26年度評価	B		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用																		
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用																		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課																
施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。 ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り、団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。 																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能保存会加盟団体数</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>				算出方法	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)	民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33	36						
算出方法	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)															
民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33	36															
平成27年度 主な事業の概要及び実施状況																			
<p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額13,109千円・支出済額13,109千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩荻野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。 <p>○文化遺産を活かした地域活性化事業 【予算現額8,985千円・支出済額8,985千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「狂言ワークショップ」の開催 9月29日 松山城址館で松山地区の小学5年生169名を対象に、「萬狂言」による狂言の指導を受けた。 ・「伝統芸能フェスティバル」の開催 9月29日 約1,000名が鑑賞 市民会館で松山能と野村萬・萬蔵・萬狂言が公演を行い伝統文化を楽しんだ。 <p>○さかた歴史街道事業 【予算現額1,534千円・支出済額1,514千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民俗芸能フェスタ」の開催 11月7日 会場：市民会館 希望ホール 参加者688名 県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成し、市民に広く紹介した。 ・「黒森歌舞伎酒田公演」の開催 3月6日 会場：市民会館 希望ホール 参加者700名 黒森歌舞伎正月公演を黒森地区で終えてから、同じ演目で公演を行い市民へ広く民俗芸能の素晴らしさを鑑賞いただいた。 																			
<p>参考</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">入場者数 (人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能フェスタ</td> <td>800</td> <td>890</td> <td>688</td> </tr> <tr> <td>黒森歌舞伎酒田公演</td> <td>600</td> <td>600</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table>				入場者数 (人)					25年度	26年度	27年度	民俗芸能フェスタ	800	890	688	黒森歌舞伎酒田公演	600	600	700
入場者数 (人)																			
	25年度	26年度	27年度																
民俗芸能フェスタ	800	890	688																
黒森歌舞伎酒田公演	600	600	700																

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○文化遺産を活かした地域活性化事業として、松山城址館を会場に松山地区の小学生を対象とした狂言ワークショップを開催した。 ○また、昨年度は秋田市・酒田市交流事業の一環として、黒森歌舞伎が秋田市で公演を行ない、文化遺産を活かした地域活性化事業補助を受け開催した「伝統芸能フェスティバル」では、松山能が「萬狂言」との共演を行った。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○「民俗芸能フェスタ」は46回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や、情報交換の場として重要な役割を果たした。 ○黒森歌舞伎については、秋田市で公演を行うことにより、県を超えて広く認知される場所となった。 ○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能の底辺拡大を図ることができた。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。 ○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。 ○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎正月公演の映像記録などを後継者育成などに活用を図っていく。 	
【参考】26年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○市外での公演は、酒田をPRするの良い機会にもなるので、積極的に協力していく。 	

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(3) 地域資料の収集と保存		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標					
○目的					
・市立資料館、松山文化伝承館の管理運営と活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深める。					
・文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。					
・歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。					
○目標					
・企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。					
算出方法	施設	25年度	26年度	27年度	31年度 (目標)
入場者数 実績	市立資料館	5,790	6,482	6,276	7,000以上
	松山文化伝承館	3,005	3,889	4,685	5,000以上

平成27年度 主な事業の概要及び実施状況

- 文化財施設管理運営事業
【予算現額43,514千円・支出済額42,913千円】
- ・保存資料の購入（御客船帳）
各地の商船や商人との商い状況の記録
- 学校教育との連携
- ・市立資料館
小中学校来館校数 16校、来館者総数 685人
- ・松山文化伝承館
小中学校来館校数 6校、来館者総数 516人
- ・城輪柵跡
小中学校の見学校数 7校、見学者総数 306人
- 文化的資料の相談や情報提供業務
(レファレンス)

入館者数 (人)

施設	25年度	26年度	27年度	備考
市立資料館	5,790	6,482	6,276	企画展 年5回
文化伝承館	3,005	3,889	4,685	企画展 年5回
阿部記念館	154	167	100	

文化財及び歴史資料の収集・保存状況 (件)

施設	25年度	26年度	27年度
市立資料館	3,393	647	1,531
松山文化伝承館	32	23	252

レファレンス（調査・問い合わせ等）対応状況 (件)

施設	25年度	26年度	27年度
市立資料館	48	37	61
松山文化伝承館	11	11	14

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(3) 地域資料の収集と保存		
担当部署	社会教育文化課	平成27年度 担当部署	社会教育課
平成27年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○合併10周年の記念行事として伝承館で石黒光二氏の彫刻の展示とギャラリートークを開催した。</p> <p>○南遊佐収蔵庫に保管されていた資料館の収蔵品を、旧鳥海小学校に移し一元的な保管を図った。</p> <p>○合併10周年の記念行事を松山文化伝承館で開催したことで施設を有効に活用することができた。特に期間中は1,820人の来館があったことから一定の効果があった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○合併10周年の記念行事を松山文化伝承館で開催したことで施設を有効に活用することができた。特に期間中は1,820人の来館があったことから一定の効果があった。</p> <p>○歴史的に価値のある郷土の資料等については、購入や寄付の受け入れを行い、散逸を防ぐとともに、収集、保存に努めた。</p> <p>○魅力ある展示内容にするよう工夫検討し、ホームページやフェイスブック、マスコミ等を活用してPRに努めた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
27年度評価	B	<p>○来館者が増えるような企画展示を考えていく。</p> <p>○合併10周年など何かの節目に合わせて企画を行うことで来館者の増加を図ることが可能なので、時機を得た企画ができるように努める。</p> <p>○阿部記念館については、松山総合支所とも協力してPRを図り、来館者の増加に努める。</p>	
【参考】26年度評価	B		

